

げんこつ団 30周年公演@駅前劇場

『フアクト・リ』

植木 早苗

鯛肩タイカタ

火吹き男 男1(調査員) 男子1 息子 横田 キンチョー 専務1(エル・ニーニョ) 医者1 総理

春原 久子

鶴胸(ツルムネ)

アンパン パン 男2(調査員) 教師 黒猫 中村 中田 ポツカ 常務1(フエーン) 団員1

河野 美菜

亀腹(カメハラ)

アン 女2 男3(調査員) 女子 専務2(ラ・ニーニャ) ブルーナー

池田 玲子

狸頭(タヌガシラ)

マン 男4(調査員) 男子2 警察1 監査2(フランチ) ボトム 鶴胸2 団員2

三 明 真 実

鯉脛(コイスネ)

火渡り男 男5(調査員) 地底男 警察2 監査1(ドッブラー) アラジン 鯛肩2 ラテン女 団員3

丹 野 薫

鼠尻(ネズジリ)

狸頭2 原始人 上田 村田 海女1 母親

三 枝 翠

蛇喉(ヘビノド)

社長

天 笠 有 紀

龍腿(タツモモ)

副社長 下田 海女2 ラテン女 記者

藤 岡 悠 美 子

うどん

女1 地底女 警察3 常務2(ビート・アイランド) 蛇喉2

映像出演協力(敬称略五十音順)

新井友香

池谷のぶえ

澤田育子

千葉雅子

藤田紀子

秋月三佳

伊藤美穂

遠藤弘章

大場靖子

加島愛

川端さくら

菊川朝子

工藤史子

久保田琴乃

しじみ

武輪加奈子

館智子

辻崇雅

中山裕康

古川万城子

脚本 一十口裏

演出・映像・音響 一十口裏

演出・振付 植木早苗

照明 山岡 茉友子

舞台装置 島山 英樹

音響オペ 吉田 有花

映像オペ 信広 天音

協力 株式会社テンカトル 10・Quatre (有)プログレスアイエヌジー 涙目キュービー 島山工務店
制作 げんこつ団事務所

映像協力 株式会社タックスープ 猫のホテル Good Morning N5 劇団宝船 カムカムミニキーナ 拙者ムニエル

株式会社スナッカー 有限会社レトル 株式会社オフィスチャープ 東京タンバリン タテヨコ企画 ロリータ男爵

10・Quatre Hula-Hooper 乙女装置

四方に瓦礫が散らばり、壁は剥げ落ち、下手側の壁は、崩れ落ちかけている。中央地面には何もなく、隅の方にラックと丸椅子が3個倒れ、書類やファイルが散乱している。上手奥は外に、上手前は給湯室や休憩所に通じる出入り口。下手奥には工場に通じる出入り口があるが、その奥を塞ぐブルーシートしか見えない。その傍らに転がっている「来福フーズ」の看板。上手側奥の壁は白い、映写スペース。

生産製造部 1

下手端には瓦礫に混じって狸頭1と2が気を失って転がっているが、客席からは目視出来ない。

蛇喉が下手奥のブルーシートを釣り終わった様子で、ロープを持ってうろろろしている。

そこに社員らしき女が、それぞれに本社に行く。爆破事故の翌日の朝。

鯛肩 おはようございます…

蛇喉 おはよう！

鯛肩 (部屋の様子を見て驚く) あ、結構、

蛇喉 (椅子を一つ取り中央に運ぶ)

鶴胸 おはようございます…

蛇喉 おはよう！

鶴胸 (部屋の様子を見て驚く) あ、結構、

鯛肩 凄いね。

鶴胸 ああ。

蛇喉 あ、鶴胸ごめん。これそこに引っ掛けてくれない？(ロープの切れっ端を渡す)

鶴胸 あ、はい。あ、鯛肩、ごめん。(ロープを受け取りつつ、鞆を鯛肩に渡す)

鯛肩 えー。

鶴胸 なんすかこれ。

蛇喉 (返答せず激しい準備体操をし始める)

鯛肩 で。今日は、つうか今日から、どうするんですか。

亀腹 おはようございます

蛇喉 おはよう！

亀腹 わ。朝から元気だな。

鶴胸 あ。亀腹も手伝って。

亀腹 何やってんの？

鶴胸 (見てみるとロープの形状は首吊りロープの形状。しかしそうと思わず)…さあ。

亀腹 (鯛肩に) ねえあっち見てきた？すごいよ、跡形もないの。ほぼ更地。瓦礫さえほとんど吹き飛んでんの。あ、ほら。これもきつとあっちから

鯛肩 (無視して蛇喉に) 工場の人たちは大丈夫だったんですか。なんか聞きました？

鶴胸 (ロープをかけようとしながら) 昨日の夜勤の人たちは、やっぱりみんなあれだよな。

亀腹 いやあちようど交代の時間だったからなあ。日勤の人も夜勤の人もあれだ。みんな。

鯛肩 やっぱそうかね。

亀腹 そうだよ。だってみーんなきれいに吹き飛んだんだよ。ねえ見てきなよ、すごいから(鯛肩を掴むなど)

鯛肩 (振り払って体操を続ける蛇喉に) ねえなんか聞きました？部長も昨日は定時で帰ったんですよ。本社とか工場の誰かから連絡ありませんでした？爆発の原因って。ちょっと、

鶴胸 原因なんかまだ分かんないですよ。昨日の今日だよ。

鯛肩　でもうちら生産製造部じゃん。その辺の調査とか、協力なり自分らでするなりするでしょ。
鶴胸　そういうのきつとこれからだから。

鯛肩　でもここに居たんだよ、みんな。

鶴胸　今はさ。今はまだそういうのいいんだよ。部長の気持ち考えなよ。工場長とももう長年…(蛇喉を見る)

蛇喉　(答えず激しい体操を続ける。この時は首を重点的に)

鶴胸　なのにこんなな気丈に体操なんかして。だからこれからだよ。(蛇喉に)　ですよね。

蛇喉　(激しく体操しながら)　あーうんうん。

亀腹　(ロープを手にとってその形状と蛇喉を眺める。眺めるだけ)

鶴胸　さ。亀腹、あんた早く手伝って。届かないんだよ。

亀腹　あ、うん。(ロープを持って椅子に乗る)

鶴胸　そこん所にこれをこっせ、

鯛肩　(部屋に散らばる書類を見ていたが、その流れで狸頭1と2を見つける)　わ。

狸頭1　あ。おっはようございまーす。

鶴胸　え、なに？

鯛肩　(狸頭1と2に乗った瓦礫を退かしながら)　え、ちよっと大丈夫ですか！(蛇喉に)　ねえ、ここに誰か！

狸頭1　ああ狸頭です狸頭。昨日ちよっと残業で。(起き上がって)

狸頭2　よりによってねー。(起き上がって)

狸頭が二人いる事にビクッと驚く全員。

鶴胸　え。いや、でも…

狸頭1　(笑って)　ああごめんなさい。狸頭の前歯です。

狸頭2　前歯です。(と、自分と1を交互に指差し示す)

鶴胸　…は？

鯛肩　(二人をよく見て)　…あー！

鶴胸　え。

狸頭1　こないだはオヤツにグミを有難うございました。

狸頭2　あーあれ、いい噛みごたえだったよね。

鯛肩　前歯だ前歯だ！狸頭の。えーっと、右と、左、だよね。向かって。

狸頭1　そうですそうです！

鶴胸　なんで分かんのか。

鯛肩　もー良かった、心配したんだよー(蛇喉に)　ねえ！たぬちゃんです。たぬちゃんの(前歯)

鶴胸　いやいやちよっと待って。じゃあ狸頭、…吹き飛んだんじゃない？

鯛肩　え？

(鯛肩に)　あれってどこのグミなんでしたっけ？　どっか外国の。

狸頭1　ね、亀腹。あれどこのだっけ？

亀腹　え、知らない。

狸頭2　え、いい噛みごたえだったじゃん。

亀腹　え、分かんないよ。

狸頭1　え、あなたにもあげたじゃん。ほら昨日、残業るとき、

蛇喉　亀腹。…あなたも昨日、残ったんだ。

亀腹　あ、はい。

蛇喉　そしたらあなたも。

亀腹 え？

蛇喉 (亀腹に歩み寄り、その頭を指先でグーパーするようにそっと撫でる)

亀腹 あ、(爆笑) ちよ、やめて！ちよっ！(爆笑)

蛇喉 ああやっぱり。あんた、膝小僧だね。

鯛肩 えっ

鶴胸 膝小僧？

鯛肩 あっ！あんた亀腹の、右膝…！

鶴胸 だから何でわかんの。

鯛肩 なんだよもう！早く言っよ！(狸頭らに) あ、他には？他に誰が残ってた？

狸頭2 さあ。うちら口開いた時にチラツと外が見えるだけなんで。

鯛肩 ああそつか。でも良かったよ！

蛇喉 (上手前に去るうとする)

鯛肩 あ、部長、どうしたんですか。

亀腹 なんすか元氣ない。さっきみたいにはら、なんか準備運動して。(さっきの蛇喉を真似る)

蛇喉 じゃ、とりあえず鶴胸。それ、よろしくね。(上手前に去っていく)

鶴胸 あ、はい。

鯛肩 あ、私、やるよ。(※音楽イン)

亀腹 あ、これのこつちをそこにね。でも届かないんだよね。

狸頭1 誰かおんぶか肩車すれば？

狸頭2 それか石かなんか括り付けて投げれば、

鯛肩 お、それだ！ なんかい石ない？

皆、和氣藹々と石を探しに、鶴胸は亀腹と狸頭らを観察し、上手奥に去っていく。と、同時に映像。

OPENING

声 バブル崩壊。その直後に、当時の政府が、忽然と姿を消しました。(消えていく内閣)

責任が取られぬまま、対策が取られぬまま、ただただ低迷を続けざるを得なかった日本経済。(不況情景)

しかしあれから30年、節目を迎える今年、現政府は遂に決意を固めました。(国会議事堂)

様々な法案が次々に可決され、新たな省庁が発足。

これによって果たされる国家の再生と安定に、期待が高まります。(華々しいエフェクト)

タイトルカラーージュから、うどん、そば、ラーメンなどの麺。

インスタント麺工場が稼働する様子。大量生産されていくカップ麺。

箸を持ってカップから出てくる白いシャツの人たち。次々9名。

首相会見。顔にモザイク処理。声にボイスチェンジャー。名前にもテロップにもモザイク。

首相 この度、我々内閣は、個人情報保護法の更なる強化と徹底に、乗り出しました。これにより、我々が何者であり、日々何をし、日々何をしていないかなど、その全てが秘密になります。ご了承ください。

内閣発足時の集合写真、全員の顔にモザイク。

明転すると舞台中央に首吊りロープがかかっている。それを鯉脛が見ている。
 上手奥から龍腿が出社してくる。

龍腿 (部屋の様子を見て) あ…結構…

鯉脛 あ、龍腿。(ロープを指す) なにこれ？

龍腿 え？(ロープを見る) 何これ、鯉脛。

鯉脛 あ。ごめんごめんごめん。(自分を指して) 鯉脛の、鎖骨。

龍腿 ?

鯉脛 ほら！左の。(少し体を傾ける)

龍腿 あー…(わからない)

鯉脛 (部屋を見渡し) なんかみんな、来たのかな？どこ行っちゃったかな？

龍腿 あ、私も今(来たところだから)

鯉脛 昼ごはんかな、買いに行ったかな？食べに行ったかな？

鼠尻 ああつ！(上手奥から出社し、鞆を投げ捨て下手の壁に駆け寄る) こんな…、嘘！こんな…(崩折れる)

鯉脛 え、鼠尻、どしたの。(思わず鼠尻に歩み寄ろうとする)

龍腿 あ、(鯉脛を引き止め小声で) あれ、鼠尻がこないだ付き合い始めた壁。

鯉脛 え。

龍腿 だからあれ、鼠尻の今壁。

鯉脛 なにそれ。

鼠尻 (壁に抱きつき) 酷い…どうしてこんな…

鯉脛 嘘でしょ？だって、前はあつちの壁だったじゃん。(上手の壁を指す)

龍腿 うん、あれが元壁。

鼠尻 (上手の壁に) 見ないでやめて！そんな、遅い木質で…そんなの私…(下手壁にもたれつつ上手壁に悶える)

龍腿 (上手の壁を見て) ああ。クロスが剥がれて、ちょっとセクシーなことになっちゃってるね。

鯉脛 セクシーなことに。(上手の壁を観察)

上手奥から率先して、アンパンが飛んでくる

その頭を追って、アンパンの体がやってくる。

アンパン すみません、こちらに蛇喉部長、いらっしやいませんか。

龍腿 えっ(相手のこと) 誰？

アンパン 元氣百倍、アンパン…(マンを見る)

全員 (マンを見る)

マン あ、マンです。

龍腿 マン。

アンパン (部屋を飛び回りながら) 蛇喉さんのお昼ご飯にお伺いしたんですが、

鯉脛 部長が、

アンパン はい。

鯉脛 アンパンを。

アンパン はい。

龍腿 じゃああなたは、

マン あ？！

龍腿 あ、いえ。

アンパン あ…(何かを吐き出しそうになる) 出ちゃう…

龍腿 え、何が。

アンパン あ、出ちゃう！(下手奥に飛び去っていく) 蛇喉さーん！

マン あっ(頭を捕らえようとするも逃げられ) ああ…(重い足を引きずって三人に会釈) じゃ(下手奥に去る)

龍腿と鯉脛、下手奥を見送るが、鼠尻はブラウスを脱ぎ去りブラジャー一枚になって元壁の方に向かう。

龍腿 あっちょっとあんた何してんの、(鼠尻を止め)

鼠尻 (今壁に) ね、許してくれるよね？だって私、(元壁のもとに行こうとする)

龍腿 (それを止めて) ちょっと待って。とりあえずこれ(元壁) 補修して、ね、元通りにするから、

鯉脛 (スマホをいじり) ああ、なんか壁紙。(鼠尻に) それと、前のと、同じのがいいよね。

鼠尻 やめて(など抵抗する)

龍腿 何見てんの？(鼠尻止めつつ)

鯉脛 メルカリ。

龍腿 壁紙なんて売ってる？

鯉脛 売ってるよ、(スマホをスクロールさせて) ほら何でも売ってる。(スクロールさせて) ほら日本…国？

龍腿 え？

鯉脛 (スマホを龍腿に見せて) ほら日本。(スマホをもう一度見て) 日本国だって売られてる…

龍腿 え。出品者、誰。(鯉脛のスマホを急いで覗きに行く)

鯉脛 (スマホを見て) えーっと、くない…

龍腿 (即座に遮り) 値段いくら、

鯉脛 (スマホを読んで) えーっと、一、十、百、千、万、十万、百万、

鼠尻 ねえ、私、どうすればいいの…？(と、両手を広げて下手奥に走り去っていく)

鯉脛 (鼠尻に) あ、どこへ、

龍腿 (鯉脛に) あ、あっちにも一面、元壁たちが。

鯉脛 え、ヤバない？あっちって。どれも粉々か剥き出しじゃん、(ワクワクした様子で思わず鼠尻を追って去る)

同時に蛇喉、体操しながら上手前からやって来る。

蛇喉 ああ、龍腿か。

龍腿 あ、部長。いま、…アンパン？が、部長探してました。

蛇喉 ああもしまた来たたらあんた食べて。

龍腿 え。

蛇喉 私いらなから。(中央の椅子に向かう)

龍腿 あの…大丈夫ですか。

蛇喉 (ロープを見上げて) あ。あとでさ、ちょっと手伝ってくんない？ この椅子、ちょっとこう、引っ張るだけでいいからさ。

龍腿 死ぬ気なんですね。

蛇喉 えっ…！(驚愕)

龍腿 (その様子から) 爆発の原因。やっぱり、私たちの仕事に、何か不備があったんですね。

蛇喉 (明らかに動揺して) いや。それはまだ…分からないから(ポケットから煙草を出す)

龍腿 (ロープを見上げて) だってそうじゃなきゃこんなこと。あ。ちょっと。ここで煙草は、
蛇喉 もう天井だって吹き飛んじやってんだからいいんだよ。
龍腿 ねえ。教えて下さい。何があつたんですか。

蛇喉 だってこんだけの大爆発だよ、何がどう爆発したかはさ…(煙草に火をつけようとライターをカチツと鳴らす。
火は点かない) ちょっと考えればあんたらだって…(カチツ。火は点かない) だから(カチツ。点かない) の
に。(ライターを振ってみる)

龍腿 (蛇喉に歩み寄ってみる)
蛇喉 (それから逃げて) やっぱりさ(カチツ。点かない) そりゃ認めたくないよ、私だって(カチツ) あんなこと
こんな(カチツ) でも(カチツカチツ) だから(カチツ) だから私が(カチツ) 私一人が(カチツカチツカチツ
カチツカチツカチツ)

龍腿 だから何が原因なんですか。何が爆発したんですか。

蛇喉 いいんだよ! あなたたちは(カチツ) 私がさ(ロープを見上げ) そしたらそれで終わるんだから(カチツカチツ
カチツカチツ。点かない)

龍腿 やめて下さい、そんなの。教えて下さい、部長一人の責任じゃないはずです。

蛇喉 ……。(カチツカチツカチツカチツ。 ※以降、ずっと続ける)

龍腿 蛇喉部長!

上手奥から、三角帽を被り風船と口ウソクの立った誕生日ケーキを持った女1、蛇喉のもとにやって来
て、火が点くの待つ。

龍腿 (女1に気づかず) 部長、教えて下さい!

手に花火を持った女2、蛇喉のもとにやって来て、火が点くの待つ。

龍腿 (女2に気づかず) 部長!

先端を油を浸した布でぐるんだ松明を持った、腰蓑一つの火吹き男、或いはコノナツを胸に当てた腰蓑の
火吹き女、蛇喉やって来る。

龍腿 え、誰?!

火吹き あ、火、吹きますから。(蛇喉を見る)

龍腿 (釣られて蛇喉を見ると、女らに気づく) わ。

女1 こんにちは。

女2 どうも。

火吹き (松明掲げる)

龍腿 吹かないで下さい。

火吹き え?

龍腿 今それどころじゃないんです。あと燃えますから。

白い着物をまくり上げた火渡り男、手を合わせて奇声を発しながら、走ってくる。

火渡り (足踏みをしながら) どこですか! 火は、どこですか!

龍腿 ありません、(足踏みを見て) あ。渡れません。

火吹き じゃあ、どうしろっていんですか!

龍腿 知りません！今それどころじゃないんです。
火渡り (足踏みしながら) 火は、火は、火は、
龍腿 火渡り出来ませんから。出てって下さい。(白着物の男を上手奥に押し戻す)
火渡り 火！ 火！(足踏みしながら去っていく)

それと入れ違いに、原始人がやってくる。それを見る四人。

原始人 ング、ンゴガ？(と、辺りを探しまわる)

女2 え？

原始人 ングー…！(と、女2に突進)

女2 (悲鳴を上げて上手奥に逃げる)

原始人 (蛇喉のライターを見つめる)

龍腿 …あ。すみません、火の発見も、出来ませんから。

ああそういうことかと、一同、はっとして。しかし。

女1 でもそれじゃ、進化できませんよ？

龍腿 え？

火吹き いいんですか？人類が、進化しなくても。

龍腿 え？ それは、困るけど…

火吹き じゃあ…(蛇喉を見る)

龍腿 (蛇喉に) 部長、お願いします。とりあえず火を。

火吹き (蛇喉に) ほら、

しかしやはり、火はつかない。

原始人 (諦めたのかライターから視線を外し、歩き始める)

女1 あ、どこへ…

原始人 ング、ンゴガ…(下手奥に去って行ってしまいそう)

照明、不安定に揺れ始める。

女1 あ、早く…！早く火を、

龍腿 部長、お願いします！

火吹き 早くしないと…！

龍腿 部長、お願いします！

原始人 ングー…(悲しく鳴いて下手奥へ去っていく)

女1 あ、待って…！ あ、

原始人 ングー…(見えなくなる)

ゴゴゴゴと不穏な音と共に照明、さらに揺れ、原始人が去ると同時に光り、そして元に戻る。

火吹き …はい。人類、進化出来ませんでした。

女1 ああそんな…(頼れる)
火吹き 進化、出来なかったんだよ。
龍腿 部長、部長！(蛇喉に駆け寄って揺さぶる)
蛇喉 え？何？
龍腿 部長のせいです。
蛇喉 ……そっだよ？
龍腿 全部、部長のせいですから…！
蛇喉 ああ、だから私が、責任を取るってば。

そこにアン、上手奥から飛び出して来る。それを追って先ほどのアンパン(パン)、先ほどよりげっそりやつれてやって来る。遅れてマン、やって来る。

アン (笑っているか、奇声を発している)
龍腿 え、なに？
アン アンです。
パン パンです。
マン マンです。
龍腿 アン？
パン あ、蛇喉さん。あ、ごめんなさい、今、アンを、今、(アンを捕まえようとする)
マン (パンを捕まえようとする)
蛇喉 (龍腿に) じゃ、あんたこれ、食べてね。
龍腿 え？
蛇喉 あと、あとであれば(椅子を指し)手伝ってね。(上手前に去っていく)
パン (龍腿に) あ、今ちゃんしますから、今、
アン (笑っているか奇声を発し、下手奥に飛び去っていく)
パン ああなんで！なんで！(アンを追って去る)
マン (ブツブツと聞こえない文句を言って、しゃがみ込む)

同時にスマホ着信音。どこから？と思う一同。女1、ポケットからスマホを出し電話に出る。

女1 ……もしもし、あなた？ 今、進化がね、…あら？ もしもし？聞こえる？もしもし？
マン 何してんの。そんなんじゃ通じないよ。
女1 え？
マン もっと気合いを入れて。本気を出さないと。
女1 本気？
マン だってそれ、草履だし。
女1 (手の草履を見て) ひっ(思わず放り)なにこれ。
火吹き (放られた草履を拾って) 本気を出したら、通じるんですか。
マン 何だっつてそっでしょ。全ての動力は気力だよ。(立ち上がり) じゃ。(下手奥に去っていく)
女1 え…(マンを見送り、火吹きを振り返り)……じゃあ進化は、
火吹き (再び草履を見てから、辺りを見回し) なんか全部、気力で…？
女1 ……ああ。あの原始人、火力じゃなくて、気力で、なんとかしたのね。

なんとなく辺りを見回す三人。防災放送のチャイムが鳴り、放送が始まる。

F 発電・来福フーズCM

放送

気力発電所からのお知らせです。只今全国的に気力が低下しております。国民の皆様はもっと頑張ってください。はい。もっと。はい。頑張ってください。例えばどんなに生活が苦しくても、頑張ってください。たとえ何の結果も成果も出ずとも、頑張ってください。そうしなければ、灯りは一切灯りません。はい。もっと。はい。そうです。

映像イン。徐々に灯りのついていく街にポスター。禁煙、禁酒、禁糖、禁塩、禁油、禁肉、禁魚、禁菜、禁麦、禁豆、禁苔……。街がすっかり明るくなると、来福フーズCMが始まる。爽やかな男女。

女 ラーメン、チャーメン、ウドン、ソバ。キシメン、ビーフン、ジャージャーメン。

色んな麺が何でも美味しい、インスタント麺なら来福フーズ。

男 来福フーズの来福麺は、小麦粉、蕎麦粉、米粉に片栗粉はもちろんのこと、塩分糖分油分等、なんにも使っておりません。

女 アレルゲンゼロ、原材料ゼロ。（何も材料のない工場、図解）

男 廃棄物ゼロ、大気汚染ゼロ。（何も廃棄物のない工場、図解）

女 つまり生産コストが、完全にゼロ！（図解）

湯気の立つ、麺の入った商品。

男 人と地球と我々に優しい、来福フーズの来福麺。

女 是非一度、お試し下さい。

調査

鼠尻、すっかりした顔でブラウスのボタンを留めながらスカートを直しながら、下手奥から戻って来る。その後ろに調査員の男1、2、3、続く。

鼠尻 どうぞこちらで少し。

男3 ありがとうございます。

鼠尻 お疲れ様です。（椅子を取ろうと少しだけ動く）

男2 あ、お気遣いなく。

男ら、それぞれにキビキビと椅子を取って、キビキビと資料を見たり何か書き込んだり調べたり。

鼠尻 じゃ。ちょっと待って下さい。（と、自分の靴を脱ぎ、何か押し、耳に当てる）もしもし。あ、はい、そうです。今、終わりました。はい、分かりました。（靴の何かを押し床に落とす）あ、もう少ししたら、部長、来るそうなんです。（靴を履く）

男2 分かりました。

男1 おい。（と男3に手を出し）

男3 あ、報告書っすね。（と男1に報告書を渡し）おい（と男2に声を掛けると）

男2 あ、資料。（再度男3の顔を見て）あ、今日ではなく昨日のっすね。（と男3に資料を渡し）

男1 で、お前、ほうじ茶だろ。（男3にペットボトルを投げ）お前は、烏龍茶。（男2にも投げる）

男ら （口々にお礼）

男1
で：

男2 (男1の顔を見て) あー今日は珈琲無糖。あ。ミルク入り？珍しいっすね。

男1
まあな。

男3 (鼠尻の顔を見て) あ。あっちの部屋を出た所の自販機が稼働中ですね。行ってきます。(上手前に去る)

男1
悪いな。

鼠尻 え、なんか、すごい、手際がいいんですね。

男2
そりゃ慣れてますから。

男1
あれっ(急に何か探し出す)

男2
あ、これですか？(紙を渡す)

男1
サンキュー。

男2
あれっ(急に何か探し出す)

男1
あ、これだろ。(その辺の瓦礫の一片を渡す)

男2
そうですそうです。

鼠尻 (感心する)

男1 (男2の顔を見て) ん？ 昼飯は今日はいらないのか。

男2
ええ。

男1
なんだ。朝から彼女お手製のオムライスか。ん？それがバターたっぷりで胃もたれか。

男2
まあ。

男1
いいなあ。

鼠尻 (感心する)

男2 (男1の顔を見て) え。なんすか。奥さんが？

男1
ああ。

男2
ここんとこ帰りが遅くて？(男1の顔を見て) 機嫌が悪かったから思い出の店のケーキを買って帰ったら(男1の仕草を見て) あーそれが前の奥さんとの思い出の店で。(男1の仕草を見て) 聞いただされて適当言ったら墓穴掘ってトイレに逃げ込んだんだけど(男1の仕草を見て) あー、そんな時にスマホ便器に落として(男1の仕草を見て) 慌てて出たら奥さんすでに実家に帰って、(男1の仕草を見て) それから連絡一切取れずですかー。

男1
そう。

鼠尻 (感心していいものか)

男3 (上手前から戻り缶を男1に投げ) はい、珈琲。無糖、ミルク入り(鼠尻にも投げ) はい、メロンソーダ。

鼠尻 (受け取って) あ、はい私いつも…。なんで分かるんですか。

男3
そりゃ慣れてますから。

男1
こんだけ調査員やってりゃね。何だってもう、パッと見ただけで。

照明、バチンと暗くなる。音楽、鳴り出す。同じく調査員の男4と5、踊りながら登場し、男ら、声を拳げながら激しく踊り出す。音楽はどうやらハッピーバースデー。男2と3はクラッカーを鳴らす。

鼠尻 え、どうして。自分でも忘れてたのに。(ケーキを見て) あ、嘘、なんで？名前まで。年齢も。

男2
だからパッと見ただけで、だいたいのはね。

男3
おめでとう、ねずちゃん！

男4
ね。だから元気出して。

男5
本当の恋を、探そうよ。

男ら
おめでとう！(口々に祝福)

鼠尻
あ…(三人の顔を見てから) ありがとうございます…！(ケーキを見て) ああ大好きなフジヤのケーキ…！

男ら (盛大に祝福する)

男1 ああ。あっちに隠しておいたシャンパンを持って、今、蛇喉部長がこっちに、

蛇喉、シャンパンを持って、上手前に姿を現わす。同時に音楽カットアウト。照明、戻る。

蛇喉 (部屋の真ん中に進み) お疲れ様です。事故の調査は済みましたか。

男2 あ…

男らの様子が変わる。男4と5は逃げるように去る。龍腿、蛇喉を追って上手前からやって来る。

龍腿 部長、ちゃんと説明して下さいってば。やっぱり部長が何か、

蛇喉 説明は、こちらの方々がしてくれるから。何か、分かったんでしょう？(シャンパンを飲む)

鼠尻 ええ、そりやもう凄いですよ。何でも瞬時にパツと、

男1 (鼠尻を制し) いえ。まだ詳しいところまでは。

鼠尻 え。

男2 ええ。そう簡単には。

龍腿 現時点で分かったことだけでいいんです、教えて下さい。

蛇喉 (シャンパンをがぶ飲みする)

男1 (それを奪って) 優子さん、あなた禁酒してたでしょ。肝臓を患ってからは隠れて飲むこともなくなって。入院治療とリハビリも頑張って。数値もだいぶ落ち着いてきてたじゃないですか。

蛇喉 は？

男3 だから、

蛇喉 だから何ですか！もういいから早く、説明してやって下さい。

男2 (蛇喉をいきなり平手打ち) 自暴自棄になるのはやめなさい！

男3 どうか自分を大事にして下さい、だって…

鼠尻 え？何なんですか？蛇喉部長に何か…

男1 (鼠尻に) ねずちゃんは知らなくていい。(龍腿に) たっちゃんも

龍腿 は

男1 知らなくていいんだよ。(そして蛇喉を驚愕の目で見る)

龍腿 いえ教えて下さい。やっぱり部長が何か…、あの爆発の原因は…、

蛇喉 もういいんです、早く言って下さい。何もかも全部。

男2 (意を決して蛇喉の前へ)

全員 (息を飲む)

男2 (しかし) やっぱり言えません！

蛇喉 え。

男3 (蛇喉に駆け寄りよく見て) とてもじゃないけど…

男2 (蛇喉を駆け寄り見て) ああっ…しかもそんな、

男1 (蛇喉を駆け寄り見て) ああっ…更にそんな、

龍腿 何なんですか?! 部長が何を、

男3 みゆぎ! (龍腿をいきなり平手打ちか、その口を塞ぐ)

龍腿 は?!

男3 ああ! どうしてそんな…恐ろしい…!!

男1 ああ! そんなの辛いよ…やるせ無いよ…!!

男2 そんな、世界中の重圧をたった一人で背負うような…そんなとてつもない事情を抱えてあなたは…
蛇喉 は？

男2 あっ(慌てて自分の口を塞ぎ)ごめんなさい、でもだって、

蛇喉 あの、何ですか？ 私が、何ですか？

男3 すみません。我々からは何も…！

男1 ご事情は全て分かりました。…我々からは、何も報告しませんから。

蛇喉 いえなんか、そこまでではないと思うんですけど、

男3 (思わず蛇喉を突き飛ばすか押しやる)ひいっ…！

蛇喉 え、あの、私が、何なんですか？ 私の事情って？

男2 もういいです、もういいですから！

蛇喉 え、教えてよ、

男3 (悲鳴)

蛇喉 ちよつと！私が何なのよ！

男3 何も言いませんから。私は一切、何も言いませんから…！

男ら、つまづき転ぶ等しながら、荷物を抱えて上手奥に退散していく。

龍腿 …で。(蛇喉に)何なんですか？

蛇喉 …。(考えてから)さあ。

不穏な音と照明、下手奥に。下手奥から、食品工場の工員の制服が、少し変形した制服を着た男女、ゆっくりとやって来る。

鼠尻 あ。

地底男 ワリワリの空をやぶったのは、アヌスカ？ そるともアヌスカ？

蛇喉 え？なに？誰？

鼠尻 爆発で地面に出来た穴の、奥深くからさっき。

地底女 ワリワリの文明(ブンメイ)は千六百年続く残業(ザンギヨ)文明(ブンメイ)。

地底男 ワリワリに千六百年のザンギヨをもたらったんは、アヌスカ。

地底女 (三人を見て、蛇喉に歩み寄り)アヌスがワリワリの神か？

蛇喉 千、六百年？

地底男 ハッ(歌い踊り出す)麵ノバセー麵ノバセー

地底女 ハッ(歌い踊り出す)袋ツメーカップツメー

龍腿 部長、この工場の地下で、そんなに残業させてたんですか？

蛇喉 あ、知らない。これも知らない。

空が光り、雷鳴が轟く。

地底男 古くかれの言い伝えじよ。いつか空がやぶれつ神が姿を現わつた時、

地底女 そるが伝説で聞いた、…ノーヒンの日じよ。残業文明の終焉じよ…！

再び空が光り、雷鳴が轟く。二人、蛇喉の元にひれ伏す。

地底男 (蛇喉に) ノーヒンか！
蛇喉 あ、じゃあはい。お願いします。
地底女 ハンシュツか…！
鼠尻 あ。じゃこちらの奥の出荷口に。 (下手奥へ案内する)
地底女 シュッカーシュッカー
地底男 ああ遂にワリワリの時代が、文明が…
龍腿 (鼠尻に) …あ。じゃ私、輸送の手配、とりあえず。 (下手奥に向かう)
鼠尻 うん。よろしく。 (二人に) はいはい、こっちです。

蛇喉を残して皆、下手奥に去っていく。舞台上には教師の男が四組と書いた旗を持ち、既に立っている。

見学

教師 お弁当。
蛇喉 (振り返る)
教師 こちらですか？
蛇喉 え。
教師 お弁当。こちらですか？
蛇喉 あ、あの…。
教師 ああ。今日、工場見学の、犬爪(けんつま)小学校四年四組です。
蛇喉 あ、ごめんなさい。あ、今日はちよつとあの。連絡、行ってませんでしたか？ 本社の方からか、あ、私…。あ
あ、ごめんなさい私、ご連絡するのを…
教師 いえこちらこそすみません。どなたもいなかったたので勝手に見学を、
蛇腹 え。でも驚きましたでしょ、こんな惨状ですから…
教師 (笑って) え。いや別に。

男子1と2と女子、ふざけての追い駆けつこのに上手奥から走り入ってくる。それぞれ頭に何か乗っている。(※子供同士の台詞は各々で…)

教師 こら、走ったら危ないぞー。
男子1 (無視して声を上げるか叫ぶかして走り、男子2と女子を追う)
教師 こらー、静かにしろー。
男子2 (同じく)
教師 ほらほら静かにー。走らないー。
三人、子供らしく遊び騒ぐ。

蛇喉 まあ子供は元気な方が。ねえ。
教師 まあ、そうなんですけどねえ。
蛇喉 ほらその辺、危ないから気をつけて。
教師 でもみんな、核弾頭搭載なんでね。
蛇喉 え？なんで。
教師 ほらほらまた町が吹っ飛ぶぞー。ほら危ないから。あ。ほらまた。誰だー？ (と何かを見つけ拾いに行く)
子供ら (教師を見る)

教師 またウランだかプルトニウムだか（拾った途端に）あ。致死量。（静止し倒れる）
蛇喉 …え？先生？先生！

子供ら （また騒ぎ出す）
女子 （騒ぎ転ぶ）

蛇喉 （思わず悲鳴。その尻を叩く）危ないじゃないー何してんのーやめなさい！

教師 あ、駄目です、
蛇喉 だって、

女子 （冷静に）セット。（発射台にセッティングされる動作が始まる）

男子1 （面白がって）うっせーババー。

男子2 （面白がって）うっせーババー。

蛇喉 ちよつとあんた達（男子1の尻を叩き）何でもいいから（男子2の尻を叩き）大人しくしなさい、動かないで。危ないから！

男子1 （冷静に）セット。（発射台にセッティングされる動作）

男子2 （冷静に）セット。（発射台にセッティングされる動作）

蛇喉 え？

女子 テン、ナイン、エイト、セブン。

蛇喉 え？

男子1 シックス、ファイブ、フォー。

蛇喉 何？ちよつと。

男子2 スリー、ツー、ワン。

蛇喉 ちよつと待って。嘘でしょ。

三人 （一瞬の間の後、ゴーツ、或いはシューツという音と共に、上手奥に向かって飛んでいく）

教師 ちよつと待て…（瀕死のまま止めようと三人の内一人にしがみつき一緒に飛んでいく）ああああああ。

蛇喉 え、ちよつと待って、ごめんなさい！ちよつと！…え？ どこに発射されたの？ どこへー！

四人、空の彼方へ飛んでいく。下手奥から一本のうどんがやって来る。

うどん 大変です。大変です、蛇喉部長。

蛇喉 誰？

うどん うどんです。

蛇喉 うどん？

うどん はい、おうどんです。

蛇喉 あなた。（工場を見て）ああ、無事だったんだ。

うどん はい、工場で、私一本だけ。

蛇喉 そう。

うどん あ。今、本社からいらした社員の方々が。

蛇喉 本社から？

うどん はい。

蛇喉 遂に来たのね…。

うどん ところで今飛んでいったのは。

蛇喉 それはもう、どうでもいいわ。

うどん 部長。

蛇喉 そうか…。

うどん 部長。
蛇喉 ……………。

うどん 部長？ 部長？ 気を確かに。部長。……ん？

防災サイレンと放送が聞こえ始めて、暗転。

F 正気

放送 気力発電所です。また気力が低下しております。もっと頑張ってください。もっと。はい、もっと。

国税庁会見の様子。スーツ姿だが、派手な帽子かパンティを被るかブラジャーを被るか或いはブラジャーを胸にする等、キチガイじみた風貌の長官。

長官 えー、つきましては、国民の気力の低迷により不安定化する財源の安定に向けて、我々は本日より、「正気税」の導入を、決定しました。これにより本日から国民は、正気である分だけ、税金が課せられます。（突如、舌を出し）レロレロレ。えー、これより国民は正気を保っている分だけの正気税率が（舌を出し目玉を上に向けて）レロレロレ。正気の皆さま、ご注意ください。正気な分だけ、

記者 （手を上げ）ちょっと待ってください、その、正気かどうかは誰がどのように、
長官 （遮って）あ、正気ですか、あなた。正気ですね、あなた。ねえ。

画面、クロスフェードし、成人式会場の画像。

声1 また、季節外れではありますが、本日各地で、セイジンシキが執り行われました。

成人式らしい会場の前に、キリスト教、仏教、儒教の、聖人達。

1 つーか聖人になったからってなんか変わるー？

2 変わるよー。今日からあたしたち、聖人君主だよ？崇拜されんだよ？尊いんだよ？

1 まーねー。

声1 おめでとーございます。今日はこの後、なにをしますか？

1 あたし奇跡起こすー

2 あたし人の道を説くー

3 あたし更なる修行に励むー

1 あっ、アッシジのフランチェスコと日蓮とサハバだ。

2 あ、ほんとだ。貴いー。（たっとい）

3 眩しい。

1 ねーねー一緒に徳積もー。

三人、小走りでフレームアウト。

音楽イン。「経済産業省」

声2 経済産業が提唱する新しい「ものづくり改革」は、「ものつくらず」
なにもつくらなければ、リスクゼロ。それが今の、ソリューションです。

砂埃から砂漠。砂丘の彼方に工場。

風の音のまま明転。椅子一つ並んだまま。鯛肩と鶴胸と亀腹、朝の服装の上に布を纏い、木の枝で作った杖を持つなどし、足を引き摺るようにやって来る。

鶴胸 ただいまー

鯛肩 あれ、誰もいない。

亀腹 ああ…お腹空いた。

鯛肩 だからお弁当を上げたげるつつつたのに。

亀腹 だって私もほんとはあるんだもん。作ったんだもん。

鯛肩 えっ膝小僧の癖に？

鶴胸 でも忘れて来たんじゃないでしょ。

亀腹 でもだって。取りに行けばすぐなのに。すぐのはずなのに。

鯛肩 (水筒の水を亀腹に差し出す) ほら。

亀腹 (答える間もなく声を挙げてそれを取って飲む)

鶴胸 (片手を上げて陽の角度を確認し、双眼鏡を覗く)

鯛肩 あった？社宅。

鶴胸 いや…また蜃気楼だ。

亀腹 なんで？なんで蜃気楼なの？どこなの社宅。どこ行っちゃったの？

鯛肩 なんか。爆発の影響なのかね。地面が熱持って、大気に温度差と密度差が生じてんね。

鶴胸 うん。光がだいぶ、屈折を起こしてんね。

亀腹 なんなのそれ。つか帰れんの、うちら。

鶴胸 さあ。

亀腹 ああもう。どっか近くにコンビニとかなかったっけ。

鯛肩 ないよ、こんな僻地に。この生産部と工場と、社宅しかない。

鶴胸 バスで駅まで行けばあるけど、さっきのバスもバス停も、蜃気楼だったしねえ。

亀腹 うう。

鶴胸 鯛肩。あんたどう思う？

鯛肩 え？(瓦礫から絨毯とランプを見つけてきており、その上に座る)

鶴胸 何が爆発したんだらうね。思い当たること、ある？

鯛肩 さあ。分からない

鶴胸 だよね。

鯛肩 うん。調査の結果も不明だっていうし。だからやっぱり自分達で調べるしかないね。

鶴胸 なにそれ。

鯛肩 なんかさっき拾った。(なんとなしにランプを擦りながら) だからまずは部長にもう一度話を聞いてみよう。それ

れで一から原因を…

すると突然、不思議な音と共に煙が上がって、先ほどまでと同じ服装に魔人らしいターバンを頭に巻き、チヨッキを羽織った蛇喉部長が、ランプから出てくる。以降、素敵な音楽と共に。

蛇喉 お呼びですかな。

全員 (驚き)

鯛肩 部長！

鶴胸 え…

蛇喉 (お茶目な仕草をする)

鯛肩 (様子が変わる) ああ、呼んださ！爆発事故の全貌と原因を知りたいんだ。何か知ってるかい？

亀腹 鯛肩？

蛇喉 それはそれは。でもその前に金銀財宝と御馳走は如何かな。煌びやかな城で宴を。

鯛肩 えっ、なんだい。そんなことが出来るのかい？

亀腹 (喜ぶ)

蛇喉 私に出来ないことなどございません。

鯛肩 (声をあげて) それは凄い！(絨毯を広げて飛び乗り) じゃあ鶴胸、俺はちょっと行ってくるよ。

鶴胸 は？ どこへ？

鯛肩 は！ 愛と魔法と冒険の世界さ。さあ行くぞ。

亀腹 (鯛肩に続き歓喜の声)

蛇喉 さらばじゃ。

しかし亀腹は振り落とされ、音楽と共に二人、空に飛んでいく。

鶴胸 え、ちょっと、どこへ。(空を見上げる) どこへ…

二人と共に音楽は消え、ラクダの足音と共にラクダ(実物大でなく小さくぞんざいな作り物で良い)に乗って、下手奥から上田、やって来る。

上田 (ラクダを降りてラクダを撫でるとラクダを下手奥に投げ) あなた、蛇喉部長？

鶴胸 え？ いえ。

上田 (亀腹) じゃああなた？

亀腹 いいえ。

上田 じゃどこ。案内して。

鶴胸 あ。部長は今(空を見上げる。何と書いていいかわからない)

上田 え？ いないの？ ったく、こんな僻地までわざわざ来たってのに。

鶴胸 すいません。

上田 どこに行ったの？ 呼び戻して。早く。

鶴胸 あーでも(空を見上げる。何と書いていいかわからない)

上田 ぼさっとしないで！

鶴胸 でもあの(上田を見る)

上田 は？(自分を指し) 生産管理部の上田。本社の人間の顔くらい覚えときなさいよ、全く。

鶴胸 あ、すいません。

上田 (自分のスカートの中に下から手を入れ、そこから下手奥に長く続いている赤い管をたぐりつつ) そんなことから駄目なのよ。どうせ毎日そんな感じでちんたらやってるんですよ。だからよ。だからこんなことが、

息子 (中年男性。その赤い管が臍に繋がっている状態。引っ張られ下手奥からやって来る。会釈) あ。

上田 ねえ。聞いている？

鶴胸 あ、はい。…こちらは？

上田 ああ気にしないで。まだ産まれてないんだから。

鶴胸 え？

上田 ねえ分かっている？ 大変なことをあなた達…なのにああよくもそんな呑気に。いいご身分ね。

息子 (鶴胸になんとなく、すまなそうに笑う)

上田 だから見ないで。まだ産んでないのよ。

鶴胸 でも、

上田 忙しいのよ！本社は。産休だってなかなか取れないの。(赤い管を鞭のように地面に打ち付け)なのにあんた達は…

鶴胸 (赤い管を見て) あ、臍の尾…?

上田 今日だって本当は、この子の定期検診が、なのにこんな、定期検診が。

息子 (すまなそうに母子手帳を見せて) はい。今週でちょうど、妊娠二千と八十週目になります。

上田 私だって本当はね、

息子 いいんですよ。

上田 (息子を見て) ごめんね…。本当に、ごめんね…(全身を見て) こんなことになって…

息子 いいんです…。

亀腹 ……。(赤い管をなんとなく手に取る)

上田 (気づいて) あ、やめて、よして！切れちゃうから！産休も育休も取れないって言ってるでしょ！(と、管を引っ張る。すると切れる) あっ……

一瞬、間。宙を踊る、臍の緒。息子、呼吸を始める。

息子 あっ、あっ、初めて肺に、空気が。あっ、

上田 (慌て駆け回り) 部長！管理部長！

鶴胸・亀腹 (思わず一緒に呼びかける)

上田 産後休業取得者申出書を！

鶴胸・亀腹 (思わず一緒に呼びかけようとするも出来ない)

息子 あっあっ、

上田 横田部長！ 育児休業取得者申請書と健康保険出産手当金支給申請書を…！

鶴胸・亀腹 (思わず一緒に呼びかけようとするも出来ない)

上田 ああっ、お願いします、手続きを…手続きを！(産声を上げる息子を連れて、上手奥に去っていく)

鶴胸 (思わず二人を追い) あ、あの、おめでとっございませう、ご出産おめでとっございませう(追って去る)

本社

亀腹も鶴胸を追って去ろうとするが、うごんが蛇喉を探しつつ下手奥からやって来る。

うごん 蛇喉部長。部長？ …あれ。

亀腹 あっ！

うごん あ、あの。部長、知りませんか。蛇喉部長。さっきまでここに…

亀腹 丁度よかった。ちょっと待って。(上手前に走って戻っていく)

うごん え？

同時に。ピーとやかんのお湯の沸く音がする。

亀腹 (同時にやかんを持って走り戻って来て) 何分だった。(出来ればやかんから湯気がモウモウと立つ)

うごん は？あの、

亀腹 何分。

うどん
でも私、

亀腹
(お湯を掛けようとする)

うどん
(それを止め) いえ、私、工場で私一本だけが、

亀腹
(お湯を掛けようとする)

うどん
(それを止め) いや、それで今、私、部長を、部長に、だって本社の人たちが。だから部長を探さないと、

亀腹
(お湯を掛けようとする)

うどん
やめてって。私、見たんです！私、知ってるんです。あの時、工場で、工場が、あ、

亀腹
(お湯を掛けようとする)

うどん
だからやめてって！(と、強く制してから) 知りたくないですか。何があったのか。

亀腹
……(知りたい顔)

うどん
何が原因だったのか。何が爆発したのか。部長が、何を知っているのか。

亀腹
……(興味を持つ顔)

うどん
私しか知りません。

亀腹
……(そうかと思っ顔)

うどん
(頷いて) 説明は部長を見つけてからします。だからまずは一緒に部長を(と、亀腹に背を向ける)

亀腹
(うどんにお湯を掛ける)

うどん
熱っ、ちよっ…(崩折れる)

亀腹
カヤクは？スープは？先入れ？後入れ？

うどん
ちよっと待って、(逃げる)

亀腹
どっち！(追いかける)

鯉脛、服を着た狸頭、下手奥からやって来る。

狸頭
あー疲れた。

鯉脛
明日筋肉痛だよー。

狸頭
うちら筋肉なんかないけどねー。(笑っ)

狸頭
(笑っ)

うどん
(狸頭の背後に逃げて) あ、助けて下さい、私今、

亀腹
あ、狸頭の、

狸頭
うん前歯前歯。あ、向かって右の。

亀腹
で、鯉脛の。鎖骨？ 左の？

うどん
うん、よろしく。亀腹さんの、膝小僧さん？ 右の？

亀腹
んー……惜しい！ で、どしたの？

狸頭
ああなんか搬出。手伝ってきた。

鯉脛
物凄い量の搬出だったね。

狸頭
千六百年分つつつてたもんね。

亀腹
へー。

うどん
(思わず) あの、

狸頭
わ、びっくりした。

うどん
(狸頭に) 前歯って…(鯉脛と亀腹に) じゃあ皆さんは、あの…(二人の全身を見る)

狸頭
え？ …ああ！ 吹き飛んだの吹き飛んだの。

鯉脛
びっくりしたよね。

狸頭
一瞬だったよね。ドーンつつつて。

うどん え、吹き飛んだって…。吹き飛んだ…骨…なんですか？ え？どうしてそんな。骨が、動いたり喋ったり…
鯉脛 何これ？

亀腹 うどん。

うどん そんなの、とても信じられない……

三人 (うどんを見る)

うどん あ、じゃあ他の皆さんは…、吹き飛んでない皆さんは…、

狸頭 あー今、搬出を一緒にしてて、

鯉脛 で、なんか風が吹いてちよっと地形が変わってるみたいで。輸送に少し着いてくって。

狸頭 (亀腹に) 鯛肩さんと鶴胸さんは？

亀腹 あーさっきまでここに居たけど…(ちよっと考えて呟く) あれも蜃気楼だったのかもしれない。

狸頭 蜃気楼？

亀腹 うん。

うどん ……じゃあ、今はあなた方だけなんですネ。じゃああなた方、以前の業務のことは、詳しく知りませんか？

鯉脛 あの時の、業務についても…

亀腹 ああまあ。いろいろ襟首からちよろっとしか見えなかったからね。

うどん ああ私もスカート下の裾からちよろっとしか。

うどん そつですか。ならいいんです。色々聞かれても何も知らないと答えて下さい、正直に。それでいいです。

亀腹 え？なんで？

狸頭 で？何分なんです？

うどん え？

鯉脛 (亀腹のやかんを奪ってうどんにお湯を掛ける)

狸頭 丁度良かった、お腹空いたの。

鯉脛 何分。

うどん (思わず答えて) 5分ですけど。(上手前に逃げていく)

狸頭 (追いかけて) あっちよっと、お揚げか天ぷらは？先入れ？後のせ？

亀腹 あ、ちよっと待って、(追いかけてようとする)

うどんと鯉脛と狸頭、去ると同時に、中村の鳴き声が聞こえる。頭が赤く、白手袋。

亀腹 (思わず立ち止まり) なに？

中村 (上手奥からやって来る) あ。部長、居る？ なんだっけ、へビノド部長？

亀腹 あー(空を見上げる)

中村 いやあ先に上田さんが着いたと思うんだけどア(鳴き声)なんか急に産気づいたみたいでアッ(鳴き声)、すいませんでした。

亀腹 はあ。

中村 あ、今ね、あっちでア(鳴き声)産湯に浸かってア(鳴き声)母子ともに健康にアッ(鳴き声)。

女性社員、村田、荷物を担いで上手奥から追ってやって来る。

村田 (息を切らせており) 中村さんズルいですよ、何もせずに。

中村 (笑って) 村田ー、ア、遅い遅いー。

村田 手伝ってくれても良かったじゃないですか。

中村 やだよあんなん(笑って) 産湯って。おっさんじゃん。

村田 だって(息が苦しい)
中村 (更に笑って) 普段から運動しとかないからそんなアー。
村田 そんな時間ないですから。中村さんはいいですよ。冬の間だけこっちで。
中村 いやいや時間は作るもんなんだよアー、タイムマネージメントタイムマネージメント。そんなんだから仕事だつて(震にかかると)アッ……!アー……!アー……!
村田 (それに気づかず亀腹に) あーごめん。水もらえる?水出るよね?
亀腹 あ。(上手前を見て) あっちに給湯室とトイレとシャワールームが。

同時に上手奥からラクダに乗った横田と、そのラクダを引く下田、やって来る。

中村 アー……アー……
横田 (中村を見て) おい、中村? 中村、どした。(ラクダを降りる)
下田 (ラクダを上手奥に放り投げる)
村田 あ、横田部長。
横田 (村田に) おい、中村が。
村田 (中村に気づき) あーもう。中村さん大丈夫ですか(震を見て) こりゃ酷い。
中村 アー……!
横田 どうしたんだ。
村田 (震を外しながら) 中村さんは丹頂鶴なので、時折悪い人間の仕掛けた震にかかってしまいます。
横田 丹頂鶴。
村田 (震を外して) はい、もう大丈夫です。
中村 ふう、びびったー。ありがとう。
横田 なんだ、気をつけるよ。で?…お前が蛇喉か?
亀腹 いいえ。

同時にもう一羽、丹頂鶴が飛んで来る。それは蛇喉。亀腹、それを見る。二羽で美しい鶴ボーシングに。

下田 (鶴二羽に望遠の立派なカメラを向けながら亀腹に) じゃあ蛇喉はどこだ。
亀腹 あっそこに(鶴を指差そうとして)
下田 邪魔だ!(亀腹を退かす)
亀腹 でも(鶴を指差そうとして)
横田 (鶴二羽をスマホカメラで撮りながら) 邪魔なんだよ!

蛇喉、ビクツとして鳴き声を上げて飛び去る。

下田 ああっ……

中村は村田に向かって求愛のダンス。村田は気づかず。

亀腹 なに?
横田 ああ、求愛だろーうよ。
下田 求愛ダンスだよ。
村田 (震を下手の方に片付ける)

中村 (それを見てダンスをやめ、村田に着いて行きながら自分の羽を嘴で塗り始める)
横田 で。蛇喉はどこだ。あ？どこに逃げた。
亀腹 だから今、

中村 (村田に) 絶対に覗くんじゃないぞ、絶対にだ。(と言い捨て、下手奥に飛び去る)
村田 えっ(辺りを見回す)

下田 なんて蛇喉は連絡を超越して来ないんだ。(上手前を覗きに行く)

横田 ああ。それになんで詳しい調査結果が上がって来ないんだ。調査はどうした。済んだはずだろう。
亀腹 さあ。

横田 (詰め寄って) 何か秘密が。隠している事が、があるんじゃないか？

下田 (上手を覗きながら村田に) おい、そっちも見てみる。

村田 あ、はい。(と下手奥を覗く)

中村 (声のみ) アッ…!

村田 あ。

中村 (声のみ) アー…!! (飛び立っていく羽音)

横田 どした。

村田 中村さんが(上空を見上げる)あ、中村さん…(羽音が遠くに消えていく)

横田 どした。

村田 空の彼方に遠く遠く、飛び去ってしまいましたとき。

横田 え？ なんなんだ、どいつもこいつも。(椅子を蹴り飛ばす的な行動) 上田は産休、中村はこれじゃ。

下田 まいったな。

横田 製造部の不祥事は、我々管理部の責任なんだよ。

下田 早急に原因を究明して、上に報告しないと、

横田 我々が責任を取らされることになるんだよ。私の首が飛ぶんだよ。(自分の首に手刀ジェスチャー)

亀腹 えっ

横田 だから早く教える、蛇喉はどうしたんだ。

横田 あっはい！まずこんくらのランプからこうやって出て来て、(真似て)「お呼びですかな」

横田 ふざけるな！

亀腹 ひっ

村田 (横田に) もう二時です。

下田 (亀腹に) 緊急会議に間に合わないじゃないか。

村田 仕方ありませんね。我々で調べるしか。(荷物元へ。自分の分のタオルと洗面器等、用意)

下田 ああ。三時までに暫定的な調査結果だけでも送らないと。(荷物元へ。同じく)

横田 ったく。仕事が山積みなんだよ。(荷物元へ。同じく)

村田 あ、シャワールーム、あっちです。(上手前を指し、ヘアタオルを装着)

※以降、洗面器、タオル、ヘアタオル、バスローブ、ビール、さきいか以外の小物と書類は無し物で。

横田 まずここに散らばってる書類を。

下田 こっちに作業工程表が散乱してるな。

村田 こっちにもあります。

横田 よし、全部掻き集める。全部持ち帰ってデータ化だ。時間がないぞ。

下田 こっちは上半期分だ。

村田 こっちは下半期。

横田 機材点検表がこっちに散乱してるぞ。
下田 はい。(村田に) お前はそっち。
横田 (下田に) お前はシャンプー。
下田 はい。(シャンプーを投げる)
横田 (シャンプーを受け取り) おい、そこにもあるぞ。グズグズするな。(上手前に去る)
下田 うん、だいたい揃ってるが。おい、そっちに今月分の点検表はあるか。
村田 なさそうです。あ、前年分なら。
下田 ちょっと見せる。
村田 はい。(渡す)

女性社員、田村、上手前からバスロープとヘアタオル姿でやって来て。

田村 あっちにシフト表がありました。
下田 あ、先に着いてたのか。
田村 ええ、先に垢すりを。
下田 今、ここに残ってる書類を掻き集めてるから、
横田 (タオルを頭に被った状態で上手前から顔だけ出し) おい下田、背中流せ！
下田 はい！(田村に) だからよろしく(上手前に行こうとする)
亀腹 (下田を止めて) あの。
下田 え？
亀腹 なんでシャワーを？
下田 は？
亀腹 急いでるし忙しいのに、何でシャワーを？
村田 ちょっと邪魔(亀腹を退かす)
横田 (頭を拭きながら戻ってきて) 遅い！もういい！
下田 すみません！ あ、おい村田、リンス！(リンスを投げる)
村田 はい。(受け取って田村に) あ、これ、来月からの工程予定表。
田村 はい。
村田 あとボディローション。(と、ボディローションを投げると上手前に走る)
田村 はい。(ボディローションを受け取り、体に叩く)
横田 (顔に乳液を叩きながら) どうだ、何か分かったか。
田村 (ローションを叩きながら書類を見て) はい。シフト表を見る限りシフト管理には特に問題はなさそうです。
下田 (田村に) おい、今年の工程予定表、どこかにないか。
田村 探します。
下田 よろしく。(上手前に走る)
横田 (下田に) あ、おい、軽石忘れてるぞ！しっかりしろ(投げる)
下田 (キャッチして) すいません！(田村に) あと工程表に抜けがないかチェックして、過去分の予定表がその辺にいくつかあったからそれもまとめといて(上手前に去る)
横田 (下田に) あ、おい！ヘアローション。おい！
田村 あ、持っていきます！(受け取って上手前に去る)
横田 ああもう。しょうがねえなあ。急げ！もう時間がないぞ。

男性社員、中田、バスロープ姿で上手奥からやって来て。

中田 横田部長、総務からビールです。
横田 ああ。(受け取って急ぎ飲む)
亀腹 (上手奥を見て) え?どこで浴びてどこから来たの?
中田 (座って急ぎ飲み) どうですか、何か分かりましたか。
村田 (シャンプルーハットとバスローブで戻って来て) 横田部長、ドライヤーです。
横田 ああ。(ドライヤーをかけられながら中田に) 今、ここに残った書類の収集を。
中田 (村田に) あ、本社からビール。
村田 (横田にドライヤーをかけながら) あ、はい。今、(飲みます)
横田 (中田に) そのデータのデータ化を直ちに進めて報告書の作成を。
中田 (足や腕をマッサージ、或いはストレッチしながら) わかりました。
下田 (頭をブラシで叩きながら戻って来て) あ、中田。こっちにもビール。
中田 はい。(ビールを渡す)
下田 (受け取って上手前に言う) おい、枝豆は!
横田 (村田からドライヤー奪い自分でやり始め) おい!グズグズするな。
村田 はい。(ビールを急ぎ飲みながら) これ、前年分の点検表とサキイカです。(横田に渡す)
横田 おう。豆腐は?豆腐!
下田 (ビールを飲みながら上手前に言う) おいネギ切れネギ!急げ!
田村声 (シャワー音と共に) はい!
横田 (ビールを飲みながら) おいマッサージ師はどした!まだか!
中田 (ビールを飲みながら) あ、多分もう間も無く。
下田 (ビールを飲みながら上手前に) 醤油は?あるのか?
田村声 (シャワー音と共に) あります!
横田 なんだおい、このままじゃ間に合わないぞ。(その辺に横たわりながら) どうするんだ。
下田 (同じく) ああもうだめだ。
村田 (同じく) もう何にもやる気がしない。
亀腹 え。
横田 (徐々にガラけながら) どうするんだよ。これじゃ帰れないじゃないか。
下田 (同じく) 我々は調査結果を持ち帰らなきゃならないんだよ。
横田 (同じく) でないと私は、
村田 (同じく) ああもうどうしよう...(泣き出す)
亀腹 あ。(と、その辺に散らばった書類の一枚に気がつき) これ、昨日の作業工程表です。丁度昨日の、あの時間帯の。(拾って差し出す)
横田 ああつ!(と、思わずそれを怖がるようにはたき落して) でももう見る気がしないんだよ!
亀腹 なんて。
下田 酔っ払っちゃったからからだよ!
亀腹 …。じゃあなんでビールを。
中田 風呂上がりだからだよ!
亀腹 …。じゃあなんで風呂に。
横田 無意識だよ。
亀腹 無意識?
村田 だって風呂上がりのビールは格別でしょ?(泣きながら) ああもう仕事しなくない…戻りたくない…
横田 (その肩を優しく撫でながら) 村田…

亀腹 いや。ちょっと見て下さいよ。これ昨日の。ちょうどあの時間帯の（書類を差し出す）
村田（悲鳴）

同時に電話音が鳴る。スマホや携帯ではないオフィス電話音。

中田 本社からか？

横田 出るな。

中田 でも。

下田 とりあえずテキスト言ってごまかせ。電話はどこだ。

亀腹（これかなと思い、小さなバスポンジを取ると音がやむ。それを中田に渡す）

中田（それを耳に当て）もしもし（大きな声で罵倒される）あ、はい、すみません。まだあの、はい、すみません。いや…（しかし堪らず放り投げる）

すると直ちに再び電話音。四人、顔を見合わず。横田が何か決断する。

亀腹（これかなと思い、サキイカを一本手に取る。すると音がやむ。あ、これが？と思う）

横田（そのサキイカを奪って耳に当て）申し訳ありません。私はもう、弊社ではやっていけません。だから今日をもってやめさせて頂きます。だから未消化の有給千六百日を、あ。（電話切れたらしくサキイカを放り投げる）

中田 部長。

横田 すまん。

下田 労基に訴えましょう。私も辞めます。

村田 そうしましょう。私も辞めますから。

中田 じゃあ違反の証拠を集めましょう。きっちり集めて訴えましょう。私も辞めます。

下田（落ちたサキイカを拾い）奴ら早々に色々隠蔽するぞ。急がないと。

中田（横田に）早く戻って必要書類とデータを。

横田 よし。村田、タクシー！

村田 はい！（走って下手奥の方へ）

横田 下田、総務にデータを出させる！

下田 はい！（走って上手前の方へ）

横田 中田、おかわり！（ビールを見せる）

下田と村田（口々に言いながら戻る）あ、私にも。

横田 あと枝豆と豆腐を！早く！

村田 はい！（上手奥に走る）

田村声 あ、あ、マッサージ師が到着しました！

四人、我先にと上手前に走る。

亀腹 あ。（書類を差し出して追って）これ。いいんですか。ちょっと、

同時に一段と大きな電話音が鳴る。亀腹、上を見上げ、地面を見る。

亀腹 地球が…？（と言うと、なんとなく辺りを見渡し、歩き回りながら…え。どこ取ればいいの。どこ…

電話音の鳴るなか警察官、三名、上手奥からやって来る。警察官の衣装だが、警一は頭に帽子のような妙な形の布を被り、警2と3は袈裟を着ている。

警一 鳴ってるよ、地球。

亀腹 え？

警二 取らないの。

電話音、リバーブ強めに途切れる。

警三 あ、やんだ。

警一 あ、警視庁大明宗光の御霊派、一慶寿草深大です。(と、亀腹に警察手帳を見せて、警二に) おい。

警二 はい。(清めの塩か水を取り出す)

警三 (誰も居ない所に向かって) はい、退いて退いて。ダメダメ。現場に入っちゃ。はい、そこも。出てって。

警二 (それに続き、塩か水を撒きながらお経風なものを唱え始める)

警一 これ、工員の人達？ 凄い人数だね。

亀腹 え？

警一 野次馬。1、2、3、4、んー(霊視して) ざっと三十四人。

亀腹 あ、はい全員。それで全員です。

警二 (唱え終わり警一に) はい、オッケーです。

亀腹 今のは。

警二 え？ 結果結果。あなたも下がってー。(メモを出し、以降、現場のメモを取りながら)

警三 あなたこの人？ 大変でしたねー。(同じく)

警二 危険ですので下がって下さいねー。(同じく)

警一 今、爆発の原因を調べますからねー。(メモを取りつつ部屋を歩き見る)

亀腹 あ。そうだ。さっきこれを。(と、書類を差し出す)

警三 あ。(その書類に向かって片手でバツテンを切りながら念仏を唱える)

亀腹 え？

警一 はいもう結構です、捨てて下さい。燃えるゴミか、お焚き上げで。

亀腹 はあ。(※この後、書類はポケットに仕舞う)

警三 ああ酷いなあ。(警二に) まずはここを片付けて。隅々まで掃除してピカピカに。

警二 はい。

警一 ああ、あとそこ。その辺りにレモンかグレープフルーツ。なにか黄色い果物を。

警三 探します。(上手前に走って一旦去る)

警二 あ、取り急ぎ玄関は掃除しておきましたから。ピンクと橙の植物モチーフの玄関マットとタペストリー。あと、ローズマリーのポプリを置いといたんで。(なるべく呑気な開運グッズを亀腹に渡す)

亀腹 あ、有難うございます。

警一 ああ、方角が良くないな。建物全体の向きと形が。(警二に) おい。

警二 はい。パキラかポトス、それかガジュマルの鉢植えを急いでそこに。

警三 (声) ああっ！

警一 どうした。

警三 (上手前から戻り) …あ、あ。…合わせ鏡です…！

警1 なに？
警3 しかもそこにはロッカーが……、十三個。
警2 (ひいっと声を上げる)
警1 (腰が抜ける) そんな……ひどい……
警3 どうりで……。 (工場の方を見て) だからか……
亀腹 (少し考えてから) あ。そのせいなんですか！
警1 はい……間違いありません。
警2 縁起が、悪過ぎる……。
警3 でも、大丈夫です。(警1のもとへ)
警2 (亀腹に) 今、なんとかします。(警1のもとへ)
亀腹 お願います！
警1 ああ(二人と共に仰々しいおまじない動作を始める) パピリテプルルンパ。パピリテプルルンパ。
蛇喉 (声) あなたたち。

上手奥から蛇喉、茶碗に盛った白米を持って、やって来る。服装は元に戻っている。

蛇喉 もう帰って。
警2 なんだ。
蛇喉 (白米を盛った茶碗を片手に掲げる)
警3 ……？
蛇喉 (もう片方の手で箸を掲げる)
警3 ……あ、まさか(尻込む)
警2 (悲鳴)
警1 おい、やめる……落ち着け！
蛇喉 ああああ(箸を思い切り白米に刺して立てる)
警2 ああああ……！(卒倒)
警3 大丈夫か……
蛇喉 (片手を翳す)
黒猫 じゃー。(どこからかやって来て警3の前を横切る)
警3 ああああ……！(苦しむ)
蛇喉 もう帰って！(更に手を翳す)
黒猫 じゃー。(警3の前を横切る)
警1 頼む、もうやめてくれ……
蛇喉 じゃあもう帰って。調査しないで！(上手に一旦走り戻る)
警1 調査ならもう、
蛇喉 (戻ってくると、両手で枕を掲げる)
警1 あっ
蛇喉 北はどっち。
警1 あ……、やめる……。 (後ずさる)
蛇喉 亀腹！北はどっちだ！
亀腹 (上手斜め前を指す)
警1 (悲鳴)
蛇喉 (即座に警1の頭を取って、北枕に寝かせる)

警1 あああああああ！(そして就寝)
警3 ああ…なんてことを…(恐ろしすぎて見ていられず、放心状態の警2を連れて上手奥に逃げ去っていく)
黒猫 じゃー。(それを追って去る)

工場

三人を見送る蛇喉と亀腹。警1は眠ったまま、シーンは続く。

蛇喉 なんで電話に出なかった。

亀腹 え？ …。あああれ！部長だったんですか？地球。

蛇喉 本社の連中は？管理部の連中。来たんでしょ？

亀腹 ああ。

蛇喉 (靴を片方脱いで見せて) うどんからメール来た。どうだった？キツく追求されなかった？ 本社はほんと、敵しいから…

亀腹 あー。

蛇喉 奴ら今どこに。

亀腹 あ。お昼寝してます。

蛇喉 え？

亀腹 さっき寝息が聞こえたんで、あっちから。(上手前を見て) 気持ち良さそうな。

蛇喉 (上手前を見て) どうして昼寝？

亀腹 無意識ですね。

蛇喉 無意識？

亀腹 だから寝かせといてあげて下さい。

蛇喉 でも、

亀腹 (唐突に大爆笑する)

蛇喉 (驚いて) 何。

亀腹 あ。すみません。空耳でした。

蛇喉 え？

亀腹 いえ。さっきから工場の人達がちよいちよい冗談やダジャレを言つもんで。(耳の辺りを手で払いながら) ああ

また。ちょっとやめて。(笑つ)

蛇喉 …は？

亀腹 ええだからやっぱ、工員も工場長も皆んな、木っ端微塵に吹き飛んだみたいです。一人残らず。

蛇喉 ああ…。

亀腹 あ、ほら見て下さい。(下手奥壁のシミを指し) そこには工場長の赤血球と、そっちには白血球と血小板が。

蛇喉 こんなことになるのはね。(靴を履く)

亀腹 え？

蛇喉 (履き終わったら亀腹の手を取り) さっきはごめんね、逃げ出して。私、怖くなって。色々恐ろしくなって…
(ランプから出てきたことや、丹頂鶴のことを思い出す) あ。あれ、逃げ出したんですか。

蛇喉 うん、現実逃避。…でも、愛と魔法と冒険の世界で考えたんだ。やっぱり逃げちゃいけないって。

亀腹 …。あ。じゃあ鯛肩は。(見回す)

蛇喉 ああ、アラジンならどっかで元気にやってんじゃない？

亀腹 え？愛と魔法と冒険の世界で？

蛇喉 …どれ？

亀腹 え？

蛇喉 どれが工場長の赤血球だって…？
亀腹 あ(下手奥のシミを指す)こここのほら、ここんこのこれ。これですよ。

照明、青く薄暗くなり、その下手奥から、食品工場の工員の制服、全身白の制服と帽子と見紛う海女さん二人が、フラフラと漂いながら、亡霊のようにやって来る。

蛇喉 (思わず声を上げる)

亀腹 あれ？皆んな、吹き飛んだんじゃないの？え？

海女1 …なんだ、騒々しい。

亀腹 だって工員たちは一人残らず。

海女2 …工員？

海女1 ああ、あたすら工員じゃないよ。

海女2 あたすら海女だ。

亀腹 ？

海女1 ウニ採ってたら迷っちゃまってよ。

亀腹 ウニ？

海女2 ああ、ウニはどこだ。(泳ぎ探す)

海女1 アワビでもいいよ。(泳ぎ探す)

海女2 サザエでもいいよ。(泳ぎ探す)

亀腹 あ。ここにはウニは。(泳ぎ追いかける)

キンチ (声)ああんて事だ。

ポッカ (声)ひでえ有り様だぜ

蛇喉 何？誰。

海女1 (泳ぎながら) ああそっちんとこの瓦礫の下の、奥の奥の方にあったのを、引っ張り出したんだけども。

海女2 (泳ぎながら) ウニじゃなかったね。

亀腹 (泳ぎながら) ウニじゃなかったんだ。

海女ら、泳いで上手奥に去って行く。同時に下手奥から、七、八十年代風の男、やって来る。

蛇喉 (泳ぎながら海女に着いていく亀腹を止めて) あんたどこ行くの。

ポッカ (蛇喉に) 久しぶりだね。元気だったかい。

蛇喉 誰。

亀腹 あ。(何か思い出し) ちょっと待って。(上手前に走り去る)

ポッカ ちえ、なんだい。俺のこと、忘れちゃったのかい。(例の顔をする)

蛇喉 何だよ。

亀腹 (七、八十年代のポッカコーヒーを持って来て) やっぱりだ。

蛇喉 何。

亀腹 ほら。(コーヒーを見せる) ポッカの男。

ポッカ (例の顔をする)

蛇喉 …随分古いポッカだね。

キンチ (下手奥から七、八十年代のキンチョーマーク。やって来る) 仕方ねえや。俺達あずっと、そこの奥の奥の方に。

蛇喉 何？(花火の上がる音がする) え？(蟬の聲がし始める)

キンチ ある、夏の日のことさ。
ポツカ もう、三十年も前の事よ。
亀腹 (花火の音を聞きながら) ああ。日本の夏。
蛇喉 え？
亀腹 キンチヨ一の夏。

蚊の飛ぶ音が聞こえ始め、亀腹のみ、それに気を取られる。蚊を追い始める。

キンチ あの夏、入社したばかりの君が、いきなりこんな人里離れた工場に配属されてよ。
ポツカ その頃あ、こかあまだ出来立てホヤホヤだよ。
キンチ そんな君あ工場長に、毎日こっぴどく叱られて。
ポツカ ああ。工場長は職人肌だよ。
キンチ そんなあの日、君は、どうせインスタントだろつつって。
ポツカ ああ。やってらんねえって、啖阿切って。
亀腹 (キンチヨ一を蚊に向けて、その頭を押す)

キンチ そうして君は(噴霧)シュー！ここを飛び出してっただ。
ポツカ もうこのまま帰っちまおうか、辞めちまおうかってね。
キンチ でも君はシュー(向き変えられ頭を押され噴霧)思いとどまった。
蛇喉 (それが顔にかかり)あ、ちよっと。

ポツカ そんなとどりあえず俺たちを買って、ただいまつつって、ここに戻ったんさ。(蛇喉に向かって例の顔)
蛇喉 あの時の。でもなんで。

キンチ ああ、君は俺達をシュー(向き変え噴霧)工場長に渡したねシュー(同じく噴霧)放り投げるようにしてさ。
ポツカ それを奴あなんですか、大事に大事に、仕舞い込んでね。

キンチ 開封もせず飲みもせずシュー(噴霧)引き出しに仕舞い込んで、時々眺めてはシュー(長い噴霧)
蛇喉 あ、ちよっと(話の先を聞きたかった。亀腹を止めようとするが)

キンチ (全てを噴霧しきって喋らなくなる)
亀腹 (蚊の音やみ、ふうと汗を拭う)

ポツカ ありやーいったい、なんだっただんだろうね。(頭の後ろで手を組む)
亀腹 (ポツカの頭のプルトップを取る)

ポツカ プシュ。
蛇喉 工場長。(下手奥に行きシミを見る)∴どれだっけ。

亀腹 (ポツカを掴んで飲もうとしつつ)あ。そのほら。そこんこのそれ。
蛇喉 (よく見て)え、どれ。

亀腹 だから(と行こうとした際、ポツカを倒してしまっ)
ポツカ おっと(倒れる)ドポドポドポドポドポドポドポドポ

亀腹 あー。
蛇喉 (シミに)あんた馬鹿だね。なんであんなもん大事に取っといいたの。

うどん、上手前からやって来る。足腰がふにゃふにゃとしている。

うどん あ。居た居た。もー。どこ行ってたんですか。
亀腹 あ。(と、うどんを見ると、白米に刺さった箸を急いで取りに行く)
うどん 管理部の人たち、今なんか昼寝を。

蛇喉 知ってる。

うどん (上手前を見て) 何があったんですか。(キンチョーとポツカと警一を見て) 何があったんですか。

亀腹 (箸を持って手を合わせ、うどんに頭を下げ) いただきます。

うどん (その手を叩き落とし) 食べないで下さい。あ…(フラつく)

蛇喉 (それを支える) あ、あんたコシが。コシが全然なくなつて。

亀腹 えっ(うどんを改めて見て) あーもう結構伸びちゃってる。

蛇喉 (うどんを抱えたまま) うん。じゃ亀腹。まずここ片して。で。残ってる書類全部まとめて捨てといてくれる？

亀腹 え？(瓦礫を見回す)

蛇喉 全部だよ。キレイに全部。誰にも気づかれないように。あ。この部のみんなにもだよ。

亀腹 え？皆んなにも？

蛇喉 ああ。だから全部一人でやって。

亀腹 えー。

蛇喉 (うどんを放り出し) ほらこのうどん。食べていいから。

うどん えっ

蛇喉 全部食べちゃって。

亀腹 でもだつて伸びてる。

蛇喉 いいね。全部たいらげるんだよ。

うどん 部長、そんな…

蛇喉 (枕を退かし寝ている警一に) すいません起きて下さい。

警一 (目を覚ます)

蛇喉 私がやりました。私が工場を、爆破しました。

亀腹 えっ！

うどん (亀腹に) あっ違います、違うんです。部長はそんな、

蛇喉 (うどんに) 分かっている。合わせ鏡とロッカーの数のせいだから。部長、なんでそんな嘘を！

うどん (亀腹に) え？

蛇喉 日勤夜勤の交代時間を狙って一網打尽。工員達と工場長を工場内に閉じ込めて。一人残らず吹き飛ばしました。

うどん 部長！

警一 え、そうなんですか、

蛇喉 だから死刑にして下さい。

警一 いやでも、

蛇喉 ほら早く。殺して下さい。

警一 いや、そうなると取り調べや裁判が、

蛇喉 そんなんいいから。拳銃は。

警一 え？

蛇喉 持っているでしょ。

警一 持ってますけど、(思わず拳銃を見る)

蛇喉 (その拳銃を奪う)

警一 あっちよっと…！

蛇喉 (慣れない手つきで拳銃を構え、自分に向ける)

警一 やめなさい、早まるな！

うどん 部長！やめて！(思わず顔を伏せる)

キンチ
ポツカ
蛇喉
(目覚め) ……何だ、どうした。
(起き上がり) ……騒々しいな。
(二人に銃を向ける)

蛇喉、同時に別方向に走り逃げ出した二人に向けて慣れた手つきで発砲。命中。
カーン、カーン、という音と共に、缶二人、弾け飛び、転がる。

蛇喉
警一
(銃を警一に向け) さあ早く。私を殺せ。
(思わず手を挙げ) わかった。わかったからそれをこっちへ。

蛇喉、警一に銃を向ける。警一は舞台中央。その頭上に発砲。ロープが切れて落ちる。

警一
蛇喉
やめてくれ！
じゃあ早く殺せ。

警一
蛇喉
今、やるから！殺すから！だからそれを。
ああ。ちゃんと殺されたら、渡してやるよ。

警一
蛇喉
え。
さあ。(銃を向けたまま警一に近づいていく)
(悲鳴を挙げ上手奥に逃げる。逃げ去って行く)

蛇喉
うどん
部長！
あ、はい！
さあ早く！
あ、はい！
(銃を乱射しながら上手奥に走り去って行く) 早く殺せー！

蛇喉
亀腹
うどん
(蛇喉去ると同時に振り返りうどんに) ちゃんと待っててよ！(そして片付けを始める)
うどん
……………ああ。こんな……………

美しい音楽イン。舞台上の明かりは暗めに残る。亀腹は片付けを続け、瀕死のうどんは夢を見る。

F 夢

箸を手に、嬉しそうに幸せそうに、うどんを食べようとする人々。様々な人々。「わあ美味しそう」「いい匂い」「うどんって最高」などなど。とにかくうどんを褒め、喜ぶ。

緊急サイレン。これまでの防災サイレンより大ごと感のあるサイレン。

放送
気力発電所からのお知らせです。只今、全国民の気力が、枯渇しました。繰り返します。只今全国民が、完全にやる気を失いました。この放送は予備気力を使って何とか放送しておりますが、しかしその予備気力もう…

速報音。テロップ。「緊急会見」騒つく会見場。作業服を着た大臣らが壇上に上がる。
静まると壇上で、素晴らしいマイムを披露する大臣ら。

テロップ「マイム省」「マイム大臣、緊急マイムを発表」カメラのシャッター音とフラッシュ。

速報音。テロップ「緊急会見」騒つく会見場。大臣が会見の壇上に上がり、会見始まる。

大臣　えー只今、国民の気力が途絶えました。えー只今、移ろう時の立てる波間に、全ての気力が飲み込まれ、泡となって消えゆく音が、あなたの耳にもばちばちり。

テロップ『ポエム省』『ポエム大臣、緊急ポエムを発表』、悲しい音楽イン。

大臣　聞こえては消える音の行方は、誰にも辿れずはらはらり。

ああ、成す術を知らぬ私を浚（さら）え。ただ波間にゆらり、揺られるばかり。

不穏な音楽。

箸を手に、苦々しく憎しみを込めて、うどんを貶す人々。様々な人々。

「なんだようどんかよ」「うそ、どうしてうどんなの?」「うどん嫌い」「こんなもの食えるか」など。うどんについて、その良くないところを、手厳しく語る人々。そこまで嫌わずとも、という程に。

上層部

先ほどと同じ場所に寝そべったまま、うなされ、声を上げているうどん。椅子は下手端に全てきちんと重なっている。部屋の灯りは斜めから。異常気象の様相。強風の音。雷の音。うどん、驚き飛び起きる。

うどん　(自分の体を確かめ辺りを見回し) あれ…?

副社長　(パリッとしたスーツの中年女性。下手奥からやって来て部屋を見る) ああ酷い。

うどん　あ。

副社長　あなたが蛇喉部長ね。

うどん　いえ。うどんです。

副社長　え?あ、そう。んもう。優秀でもなきや馬鹿でもない、美人でもなきやブスでもない、愛想もなけりゃ反抗的でもない。まったくなんの印象も残ってないわ。ね。本っ当につまらない人。でもまあだからこそ、こんな工場にはうってつけの人材だったのに。

上手前の奥が光って落雷。うどん、小さく悲鳴をあげて、上手前を見る。

うどん　管理部の人たちが…

社長　(杖をつき上手奥から現れ) すまんね。私の心臓が今ちよつと、その高気圧の真ん中で脈打ってね。

うどん　え? (と言って社長を見て顔色が変わる)

社長　その脈動で上昇気流を巻き起こした上、積乱雲を急激に発達させたから。

上空が光り、落雷音。社長はかなりの高齢だが威厳のある男性。

うどん　…私は知りません。何も知りません! (何とか立ち上がり、下手奥に逃げる)

鼠尻　(同時に下手奥からやって来て) あ、うどん。龍腿帰って来てない?

うどん　え?

鼠尻　なんかはぐれちゃって。

うどん　知りません…! (逃げ去っていく)

鼠尻　うどん? うどーん! (副社長と社長を見て) あ、誰。

副社長　あなた、

社長 いいんだよ。誰もトップの顔なんぞ知らないもんだ。
鼠尻 あ。
社長 でもね。私は何でも知っているんだ。だってね（うっと腹を抑えて）私は、
副社長 社長、
社長 私はこの社を、私がこの社を、（腹が痛む）
副社長 社長、（その背をさする）
社長 一人から一人で…（嘔吐しそうになる）一人から…
鼠尻 あっ（と瓦礫の中から洗面器を取って社長の前に差し出す）どうぞこちらに。
社長 （その洗面器を払って）この社は私だ…！この社の全てが…（嘔吐する）

上手奥の上の方の管から、吐瀉物、吹き出す。

鼠尻 （それを見て）ん？

副社長 ああ、社長の胃袋はそこに繋がってるから。

鼠尻 え。

副社長 大丈夫ですか。少しお休みに。

社長 いいや（副社長を振り払って鼠尻に）蛇喉はごこだ。

鼠尻 え…

社長 （答えを待たず）どこなんだ！（と怒鳴ると咳き込む）あいつはまたどこに逃げたんだ…（咳き込み苦しむ）

鼠尻 あ、あの、大丈夫ですか（おろおろし下手奥に蛇口を見つけて駆け寄る）

社長 （咳き込み、呼吸困難に）

副社長 社長…！

鼠尻 しっかりして下さい！今、（瓦礫の中からコップを取って蛇口をひねると、赤い水が流れる）

社長 ああ、そこは私の動脈に…（気が遠くなっていき崩折れる）

鼠尻 （コップの赤い水を見て）え。（慌てて蛇口を閉める）

副社長 （社長に）社長、お休みになって下さい。でないと、

社長声 （以降、声は上手脇から聞こえてくる）いいや。こんなことをしでかして、いったいどういうつもりかを。

鼠尻 （声のする方を見る）

社長声 私はね、あいつの口から聞きたいんだ。それだけなんだ。

副社長 でも社長…

社長声 私は何でも知っているんだ。だって私の眼球はあっちとそっちに。

鼠尻 （社長の指差した方を見る）

社長声 あと口と舌はなんかそこらへんに。

鼠尻 （社長の指差した方を見る）

社長声 だから、（咳き込み）

副社長 社長、

社長 だからここで何があったかは、私は全部、（息苦しくなり）

副社長 だからそれを私に教えて下さい。そしたら私が、

社長声 うるさい！お前にはまだ任せん！

副社長 どうして、

社長声 この社は私だ！

副社長 でも、実質的には今は私が、

鼠尻 （話を聞きながら鼻を掘り始める）

社長声 黙れ！この社の全てが私なんだ。その隅々まで、全てが私の…！（更に息苦しくなり）
鼠尻 （更に激し鼻を掘る）
社長声 ああっ（息が詰まって振り返り鼠尻に）そこは私の呼吸気管支…（更に崩折れる）
鼠尻 （鼻に指を入れたまま）え？
副社長 （鼠尻に）あなた！
鼠尻 （鼻に指を入れたまま）ここ？！ え？ ここ？！
副社長 （社長に）社長！
鼠尻 なんて、（と鼻から指を出そうと）
副社長 （鼠尻に）そのまま！

鼠尻、鼻の穴に指を突っ込み直す。遠雷の音。

社長声 私が全責任を、取ると言っただろう…（窒息。死ぬ）

副社長 …。（舌打ちして）…しようがないわね。あなた、ここに残ってる書類を全部出さない。

鼠尻 （鼻に指を入れたまま）え、

副社長 早く！

鼠尻 あ、はい。（鼻から指を出し探しに）

副社長 一枚残らず掻き集めなさい。どんなものでも。

鼠尻 …あれ？

副社長 何？

鼠尻 いえ。ないんです、全然。

副社長 どこに隠したの。

鼠尻 隠してません。

副社長 嘘はやめて。

鼠尻 嘘じゃないです、嘘なんかつかないです。機械も工程も工員も、全部毎日きちんとちゃんと…だから（探す）

副社長 当然よ。あなた達が何かしたに違いないだから。人殺し。

鼠尻 は？

副社長 工場には何も問題はなかったの。その管理体制にも一切。だから、あなた方の罪状を早く明らかにしないと。

鼠尻 罪状って。誰かがわざとやっただってんですか？そんなわけ、

副社長 そうに決まってるじゃない。それしかないでしょ。あんな酷いことをよくも。

鼠尻 え？あ、全部押し付けるんですか。

副社長 押し付けて。現にあなた（社長を見る）

鼠尻 え、だってこれは、

副社長 だって殺人よ。大量殺人。だからその証拠を早く、

鼠尻 捏造するんですか！

副社長 見つけるのよ！

鼠尻 でも見つからなかったら！何も見つからなくても！（副社長に詰め寄る）

副社長 （悲鳴）

冷たい強風の音。鼠尻、煽られる。

専務1 （上手前から颯爽と現れて副社長を守る）大丈夫ですか。

副社長 （専務1にすがり）ああ怖かった。

専務1 (社長を見て) これは、
副社長
この子が。
専務1 なんてこった！
鼠尻 あ、違うんです、(思わず専務1に近づく)
専務1 副社長に近づくな。(身振り。強風が吹く)
鼠尻 (煽られて転がる) あっ…
専務1 やはり恐ろしい。悪魔だ。
鼠尻 あ、なんか寒い…
副社長 エルニーニョ専務、(上手前を指し) あっちは。
専務1 ああ申し訳ない。何も見つからなかったよ。
鼠尻 エル…？
副社長 ええ、エルニーニョ専務。現象よ。
鼠尻 現象？

暖かい強風の音。鼠尻、煽られる。

専務2 (下手奥から華麗に現れる) 副社長、工場にも何も残されていません。
鼠尻 あ、なんか暑い…
副社長 ありがとう、ラニーニャ専務。
専務2 (社長を見て) はっ、これは。
専務1 (鼠尻を捉え) ああ、この悪魔が。
鼠尻 あ、寒い…
専務1 ああ俺は日本を冷夏にするからね。(鼠尻を専務2に投げる)
専務2 ええ私は猛暑に。(受け止める)
鼠尻 あ、暑い…
常務1 (突風の音と共に上手奥からスピーディに現れる) 誰も見つかりませんね。やはり逃げたんでしょうか。
常務2 (鼠尻にまわりつく)
鼠尻 暑っ…！
常務2 (突風の音と共に下手奥から同じく) ああ違う。それが何よりの証拠かと。(同じく)
鼠尻 暑っ…！
常務2 暑っ…！
副社長 フェーン常務、ヒートアイランド常務。
鼠尻 現象？
副社長 ではそのように報告しましょう。犯人達は逃走を。
鼠尻 待って。私たちは何も、
常務2 (社長を見て) はっ、これは。
専務1 (鼠尻を捉え) ああ、この悪魔が。
常務2 なんてこった！
鼠尻 (それを振り払い) 悪魔じゃない！ああ寒い。これは違うし、あれも(下手奥を見る)
専務1 黙れ！

海の音が聞こえてくる。

鼠尻

え…？

副社長 海面水温が、乱高下を始めたわ。
鼠尻 え？海面が？どこに海が？

常務1 (専務2と常務2に) 社長を。
二人 (頷き、社長を上手奥に運ぶ)

専務1 何も隠したらいけないよ。残っているものは全て出しなさい。(鼠尻の周りをうねりながら)
鼠尻 やですよ！都合の悪いものは隠蔽するんですよ。(寒い)

常務1 隠蔽してるのはあなたでしよう。(鼠尻の周りをうねりながら)
鼠尻 してませんから。(暑い)

専務1 では皆さんに話を聞きましょう。皆さんはどこへ。(鼠尻の周りをうねりながら)
鼠尻 知りません。知っても言いません。(寒い)

常務1 何故です。(鼠尻の周りをうねりながら)
鼠尻 だって。(暑い)

専務1 罪が重くなるばかりですよ。

監査1 (上手前からやって来て) だから私たちに協力すればいいんですよ。あなたの罪はその分軽くなるんだから。分かるでしょう。(鼠尻に近づくだけ声が高くなっていく)

鼠尻 え？
監査1 (鼠尻から遠ざかるほど声が低くなっていく) 証言をしてくれればいいんです。それだけでいい。
副社長 ドップラー監査、書面を作成しましょう。

鼠尻 証言なんてしませんよ。私、嘘なんか、

監査2 (上手前からやって来て) 嘘じゃない。この部のこと、部長のこと、聞かせてください。ほら、怪しいところか、あったでしょう。(鼠尻に詰め寄る)

鼠尻 え？ あ……。そんな気が……？
副社長 プラシーボ監査、さっそく記録を録りましょう。

鼠尻 (監査2から逃れて) いえ！怪しいところなんて。全然なかったです！本当です。だから、(転ぶ)
全員 (それを見て笑う)

けたたましいカモメの鳴き声。音楽イン。風の音、雷鳴、激しくなっていく。

鼠尻 (カモメを見上げ) あ…

常務2 (上手奥から戻り笑いながら鼠尻に近づく) しつこいね。
専務2 (同じく) 無駄なのよ。

監査2 (同じく共に鼠尻に近づく) まだ分からないのか。
鼠尻 来ないで！ 来ないでよ！

常務1 「来るな」って。我々は現象だよ？
鼠尻 こんな間違ってます！

専務1 知らないよ。我々は現象だよ？
鼠尻 ああ、異常気象に。異常気象が。

専務1 (鼠尻を振り回して上手前に飛ばす)
副社長 (鼠尻を追って高らかに笑いながら上手前に) 諦めなさい。

現象の吹き荒れる振りから始まり、ダンス。ダンス終わると現象達、去っていく。

F 異常気象

音楽のまま、異常気象の映像。そして再び来福フーズCM。

- 男 アレルゲンゼロ、原材料ゼロ、廃棄物ゼロの来福フーズが、このたび遂に、全てのゼロを、突破しました！
- 女 アレルゲンマイナス、原材料マイナス、廃棄物マイナス。(図解)
- 男 つまり生産コストも、ぐぐんとマイナス！(図解)
- 女 ついでに出来上がり時間も、マイナス3分、マイナス5分！(図解)

生産製造部 2

音楽フェードアウトし、照明、月明かりに。

- 鼠尻 (上手前から戻ってくる。月明かりを見上げて) あ、満月…。
- 龍腿 (下手奥からやって来る。砂漠のアラブ女の服装で) あ、鼠尻。戻ってたんだ。
- 鼠尻 龍腿。(龍腿の服装を見て) どうしたの。
- 龍腿 ああうん。(自分の服装を見て) 参ったよ。完全に迷ったあげく今の異常気象で。ね。何があったの。
- 鼠尻 ああうん。本社の上層部が荒れ狂った。だからもう、お終いだ。
- 龍腿 え？

月が雲に隠れて暗転。

- 鼠尻声 何を言っても何をやっても、もう駄目なんだよ。逆らえないの。
- 龍腿声 ちょっと待って。月明かりが。
- 鼠尻声 私、社長のこと、殺しちゃったみたいだし。
- 龍腿声 えっ？

雲間から月が出て明転。鼠尻、居らず、鼠尻の居た場所に大きなサングラスの女、トムが立っている。

- 龍腿 え。誰？
- トム …。
- 龍腿 え。懐かしい。え。誰だっけ。
- トム (片足で小刻みにリズムを取ってキーボードを弾く仕草をする)
- 龍腿 (少し思い出す) あ。

また月が雲に隠れ暗転。

- 鼠尻声 だから全部部長のせいにされて、ここは閉鎖で私たちは、
- 龍腿声 ちょっと待って。月明かりが雲に。
- 鼠尻声 でも私たち、何もしてないよね。毎日きちんとちゃんと。なのに、
- 龍腿声 いやちょっと待って。誰だっけ？今の。誰だっけ？

また明転。鼠尻、居らず、鼠尻の居た場所に大きなサングラスの女、トムが立っている。

龍腿 あ。

トム (片足で小刻みにリズムを取ってキーボードを弾く仕事をとても小さな声で、どうやら歌を歌い出す)
凍る……、急な……、息も、……、まるで、

龍腿 あっ(思い出す)

また暗転。

鼠尻 なのに全部、部長のせいにされちゃう。

龍腿 声 トムキヤット!

鼠尻 なのにごうすることも出来ないの。

龍腿 声 トムキヤット!

また明転。鼠尻の居たところには鼠尻が居る。

鼠尻 どうすることも出来ないんだよ!

龍腿 えっトムは? あれ? トムだっけ?

鼠尻 え?

龍腿 あの、トムだっけ? キヤットだっけ? (トム? を探し回る) トム!

鼠尻 どうしたの。

龍腿 (探し回りながら) キヤット!

上手奥から、アラジンの服装とアラブ男の服装で、鯛肩、鶴胸、絨毯に乗ってやって来る。

鶴胸 ああやつと戻って来れた…(倒れる)

龍腿 鶴胸! 大丈夫?

鼠尻 アラジン?

鯛肩 やあ。

同時にリーゼントの男、上手奥に現れる。

龍腿 え。懐かしい。え。誰だっけ。

鼠尻 どうしたの。何があったの。

鯛肩 ああ、砂漠を迷っていたのを見つけてね、送ってあげたのさ。

鶴胸 ああ、助かったよ。

鼠尻 ああ、有難うございます。

鯛肩 じゃ、俺は愛と魔法と冒険の世界へ。(絨毯に乗る)

鶴胸 いやちょっと待って。(それを止めて) あんた鯛肩だから。

鼠尻 え、アラジンじゃないの。

鶴胸 アラジンはあっち。これは鯛肩。

龍腿 (思い出して) アラジン!

アラ (とても小さい声で、どうやら歌を歌う) 朝も……、ヘアーの……、せっ……、せっ……、とと……

龍腿 アラジン!

鶴胸 ね。だから諦めな。

鯛肩 (舌打ち) わかったよ。
アラ (ステップを踏みながら去っていく) 完全……
龍腿 アラジーン……！(感極まって崩折れる)
鶴胸 (上を見上げて) あれ？ロープは。
鯛肩 (上を見上げて) あれ？せっかく吊るしたのに。
龍腿 え？ああそうそう。(立ち上がって) 部長、死ぬ気だったみたい。
鯛肩 (驚愕して) えっ！
龍腿 うん、あのロープで首を吊って。
鶴胸 (驚愕して) 首を？！
龍腿 (鼠尻に) ね。部長、何か知ってるみたいだった。
鼠尻 え？
龍腿 蛇喉部長。何か知ってるよね。
鼠尻 ああ、そうだね。
龍腿 それで責任を取ろうとしてなのか、それとも部長が何か……

三人、龍腿を見る。少し間。そこにトイレを流す音。どこかの壁を開いて、蛇喉、やって来る。

蛇喉 あー、すっきりした。(皆に気づき) あれ。どうした。
鼠尻 えっ、部長、どこ行ってたんですか、
蛇喉 えっ、トイレだよ。
鼠尻 えっ、トイレ？ え、ずっとそこに？(壁を見に行く)
蛇喉 ああ、警察の人を追いかけてただけで途中でお腹が痛くなっちゃってさ。
蛇喉 2 (同じ壁からやって来る) だから慌てて戻ってね。ぎりぎり間に合ったよ。
龍腿 (蛇喉 2を見て) ……部長？！
蛇喉 1 え？ ああ(蛇喉 2を見て) なんか出た。
龍腿 出た？
蛇喉 2 うん。
龍腿 (蛇喉 2を見て) 部長……が？
蛇喉 1 そう。
蛇喉 2 まいったよ。(笑う)
蛇喉 1 (笑う)
蛇喉 ……そうですか。
蛇喉 2 ごめんね、死刑にして欲しかったのに。逆に増えちゃったね。
蛇喉 1 ああまあ、しょうがない。生理現象だよ。
鯛肩 え？死刑って、
それじゃ部長、
蛇喉 1 (拳銃を出して) ねえ誰か弾持っていない？それかコンビ二行けば売ってっかな。
鶴胸 (慌てて拳銃を奪って) どうしたんですか、こんなもの。(※この後、下手奥かどこかに放り投げて)
蛇喉 2 あれ？そっぴや亀腹は？
鯛肩 は？
蛇喉 1 ああそっぴや、亀腹亀腹。どこ行った？
鯛肩 鯛肩、知ってる？ 鶴胸も。
鯛肩 知りませんけど。(蛇喉 2を退かして) そんなことより部長、死刑とか、どういうことですか。やっぱり

部長が何か、したんですか？

鶴胸 (蛇喉2を退かして) そんなわけないじゃん。ないですよ？ 部長は何かを知って、

蛇喉1 居ないのか。

蛇喉2 じゃ私ちょっと探しに、(行こうとする)

蛇喉1 いや、私が行くよ。(下手奥に去っていく)

鯛肩 あっ部長、待って、

鶴胸 待って下さい、

蛇喉1が去り、なんとなく皆、蛇喉2を見る。

蛇喉2 で？どしたの、皆んな集まって。(椅子を取って座り) 鯛肩、鶴胸、私が何だって？

鯛肩 あー。(下手奥を見て) 部長は何か、したんですか？ その…

蛇喉2 え？(よく聞こえなかった)

鯛肩 (蛇喉2に) 部長が、何かしたんですか？ 工場の…

蛇喉2 ああ爆発ね。うん。私が出たんだよ。

鯛肩 えっ……。

蛇喉2 全部私だね。

鶴胸 そんなの。そんなの嘘ですよ、なんでそんな、

鼠尻 ほんとのこと教えて下さい、事故なんですよ？

蛇喉2 いやいや私だよ、私のせいなんだよ。

龍腿 だからそこところをちゃんと教えて下さいよ。何があったんですか。何をしたらあんな(ことに)

鯛肩 ……すいませーん。誰を庇ってんですか？(その辺の瓦礫を蹴るなど)それで死のうとまでするって、

それってどういふ事ですか

蛇喉2 (体操を始める)

鯛肩 (笑って) あーもー面倒臭いな。知ってることあんだらとつとと言えばいいんですよ、そしたら、

鯛肩、

鶴胸(鶴胸を突き飛ばし) そしたら私たちだって色々考えて行動しますよ、あんま馬鹿にしないで下さいよ。

(蛇喉に詰め寄って) 一人きりで何とかしようとするとか、何のつもりですか、

(鯛肩を制し) 鯛肩ちょっと落ち着いて、

龍腿 (抵抗し) 何の、

鯛肩 (制しながら) うん、だから部長の話を聞(こう)

龍腿が鯛肩の両肩を抑えた時、鯛肩はしゃがみ、鯛肩2が下手奥から走ってやって来て、鯛肩1の肩を倒立前転で回って、鯛肩1の前に現れる。

だからこういう時は信用して下さいよ！何なら口裏だって合わせるし、皆んなで考えられるじゃないですか！何も言わないじゃ、私が何か、したのかもしれないし、私が…、(何も言えなくなる)

(思わず立ち上がり) 鯛肩……

私が…！

鯛肩2 (しゃがんだままの鯛肩1を見て) …え？

龍腿 (龍腿に) ああ。鯛肩はロールタオルに育てられたんだ。

鯛肩2 え？

蛇喉2 (鯛肩2に) そうか…。ごめんね。悪かった。

龍腿 ロールタオル…？

蛇喉2 ああ。公衆トイレの洗面所とかにある、引っ張ると新しい部分が出てくる、

龍腿 ああ、引っ張るとタオルがグルグル回る…

鯛肩2 だから（蛇喉2に向き直り）だから説明して下さい、何もかも！ そしたら…！

蛇喉2 鯛肩。 （鯛肩2の両肩を抑える）

すると鯛肩2、下にしゃがみ、鯛肩1、立ち上がり素早く鯛肩2の肩で倒立前転して前へ。

鯛肩1 そしたらみんなも、私も、色々一緒に考えますから。だから…！

蛇喉2 （龍腿に）ね。

鯛肩1 （鶴胸の片腕を掴んで揺さぶり）ねえ、そうだよ。ねえ、答えてよ！（と腕を引き）だって私たち！

腕を引っ張られた瞬間から、鶴胸2、下手から走り出て来て、鶴胸1の股の間で側転。鶴胸1は転がる。

鯛肩1 えっ

鶴胸2 ああごめん。私、ペーパータオルに育てられたんだ。

鼠尻 え？ あああの、公衆トイレによくある、引っ張ると新しいのが（シュッと）、

鶴胸2 そうそう（鯛肩1に）…ああ分かってるよ。だって私たち、仲間じゃん。

鯛肩1 鶴胸…！

鯛肩1と鶴胸2、抱き合う。龍腿、転がった鶴胸2をつついてみるなどする。

龍腿 え、じゃあこれ。ゴミなの？ペーパーの、ゴミなの？

鶴胸2 ごめんね。なんか私いつもキツくあたってたかもしんない。

鯛肩1 いや私こそ。勝手ばかり言ってたかも。

鯛肩と鶴胸、友情を確かめ合う。

鼠尻 （思わず）私もごめん…！私も、いつもみんなに甘えてたかもしんない。

鶴胸2 鼠尻？

鼠尻 だってみんなが（カーツと息を吐く）優しいから（カッ）だってみんなが（カーツ）頼れるから（カッ）

なのに

鼠尻？

なのに私、（カー…カーツ）

鯛肩1 ……あ。あんた、ジェットタオルに？

龍腿 あ。あの、温風で水滴を吹き飛ばす？

鼠尻 なのにごめん！ジェットタオルの登場のせいで、ロールタオルもペーパータオルも、すっかり廃れて…

鶴胸2 …。（笑って）いいんだよ！そんなの！

鼠尻 だって私のせいで…

鯛肩1 いいんだって…だって私たち、みんなおんなじ、タオルじゃん！

鼠尻 みんな…

鶴胸2 （鼠尻を抱き寄せる）

龍腿 （不信な顔でそれを眺めている）

鼠尻 有難う…！（振り返り）龍腿。私、龍腿に迷惑ばかりかけてたね。（龍腿のもとに歩み寄る）
龍腿 え？

（歩み寄りつつ）ほんとにごめんね。

龍腿 （戸惑い）いいよ、そんなん。

待って、

皆んな仲良くやりなよ（逃げようとする）

鼠尻 （駆け寄り龍腿を自分の方に向かせて）これまでほんとに、ごめん！（龍腿の前で手を合わせる）

ジヨボジヨボと水が流れ落ちる音。手に流れ落ちる水で、手を洗ってみる鼠尻。しばし。

鶴胸2 あんた…。

鯛肩1 センサー蛇口に…

龍腿 ……。

そうだったんだ。

だから私は……。

蛇喉2 （鼠尻と鶴胸と鯛肩1に）あんたたち、良かったね。本当の仲間だって、分かって。

龍腿 部長。

いやいや。みんな同じ、洗面所仲間だよ。ちょうど良かったよ。（龍腿の前に行き手を洗う）

皆 （口々に感嘆の声を挙げる）

蛇喉2 だからこれからも仲良くやんな。これまで以上に。（洗い終えて鯛肩1で手を拭く）

鯛肩1、下にしゃがみ、鯛肩2、立ち上がり素早く鯛肩2の肩で倒立回転して前へ。

鯛肩2 部長…。

蛇喉2 ……うん。実はね。昨日、あの工場が爆発したのは、そもそも私が…（鼠尻に手をかざし）

鼠尻 （カーツ！）

蛇喉2 ……だったからで、それで（手をかざし）

鼠尻 （カーツ！）

蛇喉2 ……が、（手をかざし）

鼠尻 （カーツ！）

蛇喉2 ……して、（手をかざし）

鼠尻 （カー………ツ！）

……だったんだよ。だからごめんね。全部私のせいだ。だから私は行くよ。

え？（追いかけ）あ、あの…、

蛇喉2 （鶴胸2の片腕で手を拭き、鼻をかむか口を拭き、捨てる）

鶴胸2 （転がる）

（そのまま手奥へ）だからあんたたちは皆んなで助け合って、やってくんだよ。

え、部長、待って。（追って去っていく）

鼠尻 部長！（追って去っていく）

部長、今なんて言ったんですか！ 部長！（追って去っていく）

鶴胸2、三人が追う風に煽られ、一緒に去る。

ウサギの耳を生やし、口に黒いバツテンのテープを貼った蛇喉、下手奥から鞆をつきつつ、戻ってくる。しばし鞆をつく。

鶴胸 ……え？部長？（半身を起こして）亀腹いました？ え？部長？ 部長！

蛇喉 （蛇喉に気づき鞆をつくのをやめ口のバツテンを剥がし）ああ、鶴胸の、クズか。どうしたの？

鶴胸 いや。部長こそどうしたんですか。

蛇喉 あ。皆んなは？私は？

鶴胸 あー…

蛇喉 知らないならいいや。（と言つとまたバツテンを口に貼る）

鶴胸 ……（立ち上がり）あの。部長は何も知らないんですね。もし何か知ってるんだったら、

蛇喉 （鞆をつき始める）

鶴胸 もし何か知ってるんだったら、私にだけでも、教えてください。

蛇喉 （小首を傾げるポーズ）

鶴胸 ……私、誰にも言いませんから。

蛇喉 （別のポーズ）

鶴胸 （ウサギの耳に）部長！

同時に上手前から、髭の男、姿を見せる。

鶴胸 （それに気づき）あ、ディック・ブルーナ。

蛇喉 （凄いい勢いで鶴胸を下手の方に引き寄せ、口のバツテンを少し外して言う）だから何も言えないよ。

鶴胸 え？

蛇喉 だから何も、

ブル ……。（一、二歩、蛇喉らの方に歩く）

鶴胸 ……。（それを見る）

鶴胸 ……ほら。

鶴胸 （蛇喉を見る）え？

ブル （物凄い勢いで蛇喉に向かって走る）

蛇喉 ほら！（逃げる）

鶴胸 あ、ちよつと。

蛇喉 ね、だから何も言えない、

ブル （蛇喉を捉えて殴ろうとする）

蛇喉 だから何も…

鶴胸 （ブルーナを止めて）ちよつと待って！何を、

ブル （鶴胸を思い切り殴る）

蛇喉 鶴胸！のクズ！

（負けじと起き上がり）何だよ！（殴り返す。或いは取っ組み合いです）

鶴胸とブルーナの乱闘始まる。と、防災サイレンが鳴る。放送の内容を聞く中で、乱闘は自然と止まる。

放送 只今、3機の弾道ミサイルが、ボストン、シャンハイ、サンクトペテルブルグに着弾しました。只今、群馬県多賀郡大結町から発射された3機の弾道ミサイルが…(一旦、雑音になる)

鶴胸 ………え。

蛇喉 ………ああああああ。

鶴胸 え。どうしたんですか、

蛇喉 あああああああ。

鶴胸 どうしたんですか、

蛇喉 どうしよう、どうしよう、

放送 (雑音途切れ) そのため着弾した核弾頭から、只今、大量の原子気力が撒き散らされております。(陽気に叫ぶ)

鶴胸 大量の原子気力が、各都市から各大陸に(雑音)

鶴胸 原子気力…?

ブル あ。気力元素の最小単位で、その分裂と解放によって、多量の気力エネルギーが放出されます。

鶴胸 え?

音楽イン。照明、明るく鮮やかに色とりどりに点滅する。

放送 (雑音途切れ歌うように) 世界各地にコントロール不能の莫大な気力が降り注ぎ、世界中が気力に満ちて、

気力が体の内側から湧き上がり、自然と体が動き声を挙げ、踊り出す三人。たまたま通りかかったラテン女二人も交わって踊る。しばし。そうして盛り上がったところで。

医者1 こっちだ。

音楽カットオフ、照明戻る。救急車のサイレンが近づき止まって車のドアの音。同時に鶴胸とブルーナラテン女ら、無表情になり手奥に去っていく。

蛇喉 あ、どしたの、鶴胸、のクズ。どこへ、

入れ替わりにスーツに白衣の精神科医三人、下手奥からキビキビとやって来る。

蛇喉 え…

医者1 しっかりして下さい。(キビキビと蛇喉を椅子に座らせるか、横たわらせる)

蛇喉 なに?

医者2 救急心療内科です。(キビキビと無線に) 到着しました、はい、はい、

医者3 もう大丈夫ですよ。(キビキビと蛇喉のウサギ耳を外しパッテンテープを取り上げる)

医者1 安心して下さい。(キビキビと鞠を取り上げる)

蛇喉 ちよっと。

医者1 (腕時計を見ながら) はい、呼吸を楽にして下さい。はい、心を開いて。

蛇喉 え?

医者2 心を開いて下さい。

蛇喉 なんなの。

医者1 早く!

蛇喉 (不満顔)

医者2 (即座に) よしー

医者3 はい！ではこれに思っままに絵を、(医療ケースからスケッチブックとクレヨンを取り出し蛇喉に放る)

医者2 早く書いて！

蛇喉 (何か描きだす)

医者1 (即座にそれを奪って) はい次！

医者2 (穏やかで優しい歌を歌い始める)

医者3 (ハモるなどして共に歌い始める)

医者1 (優しく) …はい、あなたは今5歳です。何が見えますか。

蛇喉 (5歳の頃の風景が見え始める) ……ああ、お家のお庭に、

医者1 (即座に) お庭に何ですか！何が見えるんですか！

医者2 (蛇喉を揺さぶり) 答えて！

医者3 (蛇喉の頬を叩き) 早く！

医者1 一刻を争うんです。

蛇喉 ちょっと、やめて。(医者らを振り払う)

医者2 あっダメです、安静に、

蛇喉 なんなの。やめて。離して。(立ち上がり下手奥に) 鯛肩、龍腿、鼠尻！(上手の方に) どこ行ったの！

医者3 (蛇喉を捉えて) 落ち着いて下さい。

蛇喉 (逃れて続ける) あ、あと私は？私はどこ行った？ 私ー！私ー！

医者1 (蛇喉を捉えて) 落ち着いて下さい。

蛇喉 離して！

医者1 幻覚です。(※ごく小さく音楽イン)

蛇喉 え？

医者1 彼女たちは幻覚ですから。

蛇喉 え？だって、

医者2 彼女たちはみんな、幻覚なんですよ。

蛇喉 …え？

医者3 みんな……………、

医者1 幻覚なんです。

蛇喉 幻覚…？

医者1 はい。

蛇喉 ……そうなのか？(思わず医者1にすがる)

医者1 ……はい。(すぐる蛇喉に) 私たちもです。

蛇喉 !

医者1 私たちもなんです…。

蛇喉 ……。

医者2と3、蛇喉の周りを回り出す。

医者1 ごめんなさい…、私たちもなんです…。

医者3 なんですなんですなんです…(エコー)

音楽と共に、医者ら、消えるように去っていく。

蛇喉 え、ちよつと待って。どこへ。…ちよつと待って。

蛇喉、一人残される。残されたまま静止し、3秒したら、暗転。

原材料

亀腹声 部長ー。蛇喉部長ー。あれ？真っ暗だ。

明転。暗転前と全く同じ状態で立って居る蛇喉と、上手前に立っている亀腹（※生前）。過去。
※このシーンの亀腹と狸頭と鯉脛は生前。演者は同じで髪型が違う。衣装は同じ。

亀腹 わ。びっくりした。何してんですか、真っ暗な中で。

蛇喉 あ。亀腹。

亀腹 え。部長はお昼ちゃんと食べたんですか？

蛇喉 まあね。

亀腹 （椅子を取りに行きつつ）ほんとですか？駄目ですよ、ちゃんと食べないと。つか毎日ちゃんと食べてます？

あ。私、社宅戻って何か持ってきてみましょうか。作り置きが沢山あるんですよ。つい作りすぎて食べきれなくて。

蛇喉 何言ってるの。もう休み時間終わりだよ。

亀腹 （笑って）そんな。（壁にかかっているらしい時計を指差して）だってまだまだ時間ありま（すよ）

工場のサイレンが鳴り、工場の稼働音が始まる。工場の辺りに照明が灯る。

亀腹 あれ。

蛇喉 ああ、この時計遅れてるから。

亀腹 ああそうか。

狸頭と鯉脛、上手奥から走ってやって来る。

狸頭 はー間に合った。

蛇喉 間に合ってないよ。

鯉脛 セーフ。

亀腹 アウト。

狸頭 ボール。

鯉脛 ファウル。

選手 （野球選手。スライディングして来る）

蛇喉 あ。（選手を見て、どこかに一旦走り去る）

亀腹 狸頭、鯉脛、どうだった？駅前に出来たうどん屋。

鯉脛 ああ、あんま美味しくなかったよ。

亀腹 へー。（蛇喉に）ね。今日終わったら食べ行きませんか？

狸頭 いや美味しくなかったんだってば。

亀腹 うん。（蛇喉に）美味しくないうどん食べに行きましょう。

選手 （その間に野球ベースを置いて盗塁を狙いだしており）

（その間に下手からグローブを取って来て手に嵌めながら）行かないよ。ほら仕事仕事。ただでさえ全然人足んないんだから。（と、ピッチングフォームを取って、選手の盗塁を警戒する）

狸頭 忙しすぎるんですよ。もー。こんな工場。給料だって少ないのに。
亀腹 だからみんな、辞めちゃうんですよ。(椅子を軽く蹴る)
狸頭 (仕事始めつつ) 部長はちゃんとご飯食べたんですか。
鯉脛 (仕事始めつつ) 駄目ですよ、ちゃんと食べないと。
狸頭 (仕事しながら) 最近はちゃんと社宅帰ってます？
鯉脛 (仕事しながら) 駄目ですよ、ちゃんと帰って寝ないと。
狸頭 (仕事しながら) じゃないとまた幻覚、見えちゃいますよ。
蛇喉 (盗塁を警戒し) ああもう平気だよ。見えないよ。
狸頭 (蛇喉の見た方を見て) ……ほんとですか。リハビリちゃんと続けてます？
蛇喉 (盗塁を警戒し) ああ大丈夫だよ。やってるよ。
鯉脛 (蛇喉の見た方を見て) ……ならいいんですけど。
蛇喉 ほら喋ってないで、仕事を、(投球)
審判声 ストライク！バッターアウト！ゲームセット！(試合終了のサイレンと大歓声)
蛇喉 (声をあげてグローブを放り投げて、ハイタッチに回る)
狸頭 あ、そうだ、部長。また工場長が勝手に仕入れを、(ハイタッチに答える)
蛇喉 なに。
鯉脛 また大量の小麦粉ですよ。(ハイタッチに答える)
蛇喉 また？
亀腹 山のようにですよ。(ハイタッチに答える)
蛇喉 まいったね。(そのまま上手前に一旦去る)
狸頭 もう倉庫に入りきらないですよ。
鯉脛 どうするんですか、すごい邪魔なんですけど。
選手 (その間に悔しがついて地面を叩くなどしており去っていく)
蛇喉 (上手前から嬉々としてビール瓶を振りながら戻ってくる)
狸頭 あんなにどうするつもりなんだか。
亀腹 もう今や全商品が、小麦粉ゼロ、原材料ゼロ、コストゼロ、なのにねえ。
鯉脛 バレたらマズイですよねえ。けっこうなコストじゃないですか。

鯛肩と鶴胸、下手奥からやって来る。(最初のシーンの服装)

部長。工場から、今日の工程管理表です。

蛇喉 ああ有難う。(ビール瓶を鶴胸に渡し、書類を受け取り狸頭に渡す) はい、チェックよろしく。

鶴胸 (ビール瓶受け取り、落ちているグローブとベースに気づき) あれ。なんだこれ。

狸頭 (書類を見て) 第一ライン。

鯉脛 (書類を見て) 何も入れてない、捏ねてない、伸ばしてない、

亀腹 (書類を見て) 蒸してない、揚げてない、詰めてない、

狸頭 (書類を見て) オッケー。第二ライン。

鯉脛 (書類を見て) 何も入れてない、捏ねてない、伸ばしてない、

亀腹 (書類を見て) 蒸してない、揚げてない、詰めてない、

狸頭 (書類を見て) オッケー。第三ライン。(※以降、三人続けて)

蛇喉 (クールダウンストレッチを始めている)

鯛肩 (チェックを続ける三人を見て) あー今何ラインあるんだっけ。

鶴胸 (チェックを続ける三人を見て) あー六千二百三十五ライン。

鯛肩 えっまた増えた？

鶴胸 いくらでも増えるよ。(ビール瓶とグローブとベース、下手奥か舞台端に片しにい)

蛇喉 (ストレッチしながら) 工場の方はどうだった。

鯛肩 あ、ちゃんと何もしてませんでした。(工場の稼働音ひときわ大きく)

蛇喉 オツケーオツケー。(ストレッチ続け、工場を見る)

狸頭 (チェックが続いている) はい次。

鯉脛 (書類を見て) 何もしてない、何もしてない、

亀腹 (書類を見て) 何もしてない、何もしてない、

狸頭 (書類を見て) はい次。(※三人、続ける)

鯛肩 (チェック続ける三人を見て) チェックしきれるかな。

鶴胸 (同じく) 出来るでしょ。

鯛肩 (同じく) えー、出っ来るかなあ。

蛇喉 出来るかな？

蛇喉、工場を見る。ぞんざいな着ぐるみ、下手奥からやって来る。

ゴン太 フゴフゴ

鶴胸 ん？

その後には続き、着ぐるみと同じ赤い鼻をつけた龍腿と鼠尻、やって来る。

龍腿 フゴフゴ

鼠尻 フゴフゴ

蛇喉 あ。納品チェックお疲れさん。

鯛肩 龍腿？鼠尻？どうしたの？

龍腿 フゴフゴ(鶴胸の鼻に赤い鼻をつけに行く)

鼠尻 フゴフゴ(鯛肩の鼻に赤い鼻をつけに行く)

鶴胸 あ、これ何だっけ？これ犬なんだっけ熊なんだっ(鼻をつけられ) フゴフゴ

鯛肩 あ、じゃあノッポさんは？ノッポさん、どこ？ノッポ(鼻をつけられ) フゴフゴ

四人、ノッポさんを探してフゴフゴと辺りを見回し、やがて一斉に蛇喉を期待の目で見る。

ゴン太 (それに気づいて、工場を見ている蛇喉の肩を叩く)

蛇喉 (振り返ると赤い鼻がついている) フゴフゴフゴフゴ

驚く赤い鼻の者ら。蛇喉らがフゴフゴしか言わなくなったので、書類チェックの声が再び聞こえ出す。

狸頭 はい次、

鯉脛 何もしてない、何もしてない、

亀腹 何もしてない、何もしてない、

狸頭 はい次、

鯉脛 何もしてない、何もしてない、

狸頭 (書類を置いて) あー！ちょっとやめよ。ちょっと一呼吸。

鯉脛 (書類を置いて) あー終わるのかな、これ。
亀腹 (書類を置いて) 今日も残業っしょ。
狸頭 部長、ちょっとだけ休憩いいですか。
鯉脛 部長、
狸頭 部長……。
蛇喉 フゴフゴ。
狸頭 また聞いてないよ。

少し間。亀腹は蛇喉を見る。工場の稼働音。

狸頭 ああ、相変わらず今日も何もしてないなあ。
鯉脛 ああ、見事に何もしてないね。
狸頭 私たち、毎日いったい何してるんだらうね。
亀腹 (ポケットからアンパンを出して) ねえ。ちょっと休憩してアンパン、食べませんか？
鯉脛 何それ、潰れてんじゃない。
亀腹 あーアンコ出ちゃってるー

工場から、機械の不調音。工場の照明、消えるか不穩に変わる。皆、それを見る。

鯉脛 ……あれ？
蛇喉 (赤い鼻を取って) ……あ？なんだ？ ちょっと誰か見てきて。
狸頭 あ、はい。(立ち上がる)
蛇喉 ちゃんと何もしてないか、見てくるんだよ。
鯉脛 あ、はい。(立ち上がる)
蛇喉 ついでに小麦粉、全部捨てて来て。
亀腹 えっ全部？(立ち上がる)
蛇喉 トラック何台使ってもいいから。何日かかってもいいから。で。もう二度と仕入れるなって言ってきて。
亀腹 (不服顔)
蛇喉 ほら！さっさと！(と鯛肩ら四人を下手奥へ向かわせる) あんたも！(ゴン太も向かわせる)

四人とゴン太、フゴフゴ言いつつ、下手奥に急いで去る。

蛇喉 (向かわせたら踵を返して) さ。あんたらはチェックを続けて。
狸頭 え？……あ、はい……(合点がいかないながらも戻る)
蛇喉 チェックを怠ったら大変なことになるからね。この工場のラインには、もう何も入れちゃいけないんだよ。
鯉脛 そうなんですか？
蛇喉 昔とはシステムが違うからね。少しでも何かを入れたり、何かを作ろうとしたら駄目なんだよ。そしたら最後、
どうなるか。
どうなるんですか。

亀腹 どうなるんですか。
蛇喉 (工場を見て) 前は美味しいうどんが、出来たもんなんだけどね。
三人 (工場を見る)

全員の動きが完全に止まる。止まった状態で3秒したら、暗転。

狸頭声 やだ何？ 停電？

次の蛇喉の声で明転。

蛇喉 (やたら両手を振り上げるなどしており) ああごめんごめん。私、センサー照明に育てられたから。

鯉脛 …え？

蛇喉 ほら。公衆トイレとかによくある、センサーで照明が灯る、

鯉脛 ……は？

蛇喉 だからこう、しばらく誰も動かないでいるとセンサーがね？

三人、理解出来ず止まったままになり、3秒すると、暗転。次の蛇喉の声で明転。

蛇喉 (手を振り上げるなどしながら) ちよ、(ツボに入ったららしく笑いながら) だからさ、誰も動かなかったり、誰も居なくなっちゃうとき、(笑い続ける) ほら、動いて動いて、

三人 …。

亀腹 あの！すみません、やっぱちょっとだけ休憩いいですか。

蛇喉 え？なんだよ、駄目だよ。

亀腹 いいからちよっとだけ。狸頭と鯉脛もちよっと。

蛇喉 忙しいんだよ、ほんとうに。

亀腹 大丈夫です。全部二人が責任持ってやりますから。

狸頭 え。

亀腹 だから部長は今日は定時で帰って下さい。二人が残業しますから。

鯉脛 え。何それ、やだよ。

亀腹 いいから。(二人を引き寄せて二人にこっそり) とりあえず工場長ところへ。

蛇喉 何？何企んでんの？

亀腹 いいえ別に。(二人に) じゃ、とりあえずあっちでちよっと話を…(と、下手奥へ)

蛇喉 ちよっと。余計なこと考えんじやないよ、早く戻るんだよ。じゃないと、

亀腹、不満を言う狸頭と鯉脛を連れて、下手奥へ去って行く。蛇喉、舞台中央に一人、残される。

蛇喉 なんなんだよもう。また真っ暗だよ。

蛇喉が静止して3秒後、暗転。音楽イン。

視察

うごん声 誰か…。誰も、居ないんですか…。 ああ、真っ暗だ。

音楽カットオフ同時明転。椅子は上手側の二つが下手に元どおりに片されており、シーン「幻覚」最後の状態に。蛇喉は前シーン暗転時とまったく同じ状態で居る。うごんは下手奥に居る。風の音がしている。

うどん わ。びっくりした。…何してたんですか、真っ暗な中で。
蛇喉 あ。

うどん ああ……(部屋に入ってきて崩折れる)

蛇喉 (舌打ちするように) なんだよ亀腹、食べなかったのか。

うどん (心から悔し悲しく) 美味しく……、なかったようです。

蛇喉 だろうね。

うどん 私、美味しくないんですか。

蛇喉 (うどんを見る)

うどん そんな……。

蛇喉 だってあんた、原材料ゼロだよ。

うどん でもヘルシーです。人にも環境にも配慮して、

蛇喉 うん、だからよ。だからあんた、美味しいわけがないだよ。

うどん (シヨック)

蛇喉 何の栄養もないし何のエネルギーにもならないし。

うどん じゃあどうして……

蛇喉 え？

うどん じゃあどうして作ったんですか、私いたい何なんですか！

蛇喉 知らないよ。

上手からの風の音。蛇喉とうどん、吹き込んできた砂埃に身構えむせる。

うどん もう、小麦粉ならこんなにあるのに。

蛇喉 え？

うどん この、一帯の砂丘、全部が小麦粉ですよ。

蛇喉 ああそうね。

うどん 小麦粉なら、こんなにあるのに、私は…

亀腹(膝小僧) 上手前から、転がり出て来る。しかし頭しかなく、体は全身黒タイツ。

亀腹 ああああ……。

蛇喉 あ？ あんたどうしたの。

亀腹 あ。(笑) なんかあつちにさっき雷落ちて。

蛇喉 雷が？

亀腹 で、なんか割れちゃって。もうこれ(頭)だけになっちゃいました。狸頭と鯉脛なんかもうこんな粉々に。

(粉を差し出す)

再び風の音。また砂埃が吹き込み、その粉が飛ぶ。

亀腹 あああ、鯉脛！か、狸頭！

蛇喉 いや。あれも小麦粉じゃない？

亀腹 え？

うどん 昨日の粉塵爆発で吹き上げられた小麦粉です。工場長が投入した、

亀腹 あ、そっだこれ(くしゃくしゃの書類を差し出す)

再び風の音。亀腹、風で転がる。思わず書類、手放す。この後も揺れる風の音。

亀腹 ああああ……！（※亀腹、この後もずっと、二人の周りを転がり続ける）

蛇喉 （書類を拾って）やっぱり工場長か。

うどん はい。

蛇喉 ああまた、こんなに馬鹿みたいに仕入れて。

うどん ええ。国中の小麦粉を集めてやるって、息巻いてました。

亀腹 あああ（転がっている）

蛇喉 そうか。

うどん それで集めたそばからごんごんラインにぶち込んで。工員たちが止めるのも聞かずに、

蛇喉 うん。

うどん また作るんだって。本物のうどんを、

亀腹 あああ（転がっている）

蛇喉 そう。

うどん 部長に食べさすんだって。

蛇喉 うん。

うどん 本物だったってインスタントなのに。

蛇喉 そうね。

うどん で、全部のラインにぶち込んだ途端に。

亀腹 あああ（転がっている）

蛇喉 うん。

うどん ……作れないんですよ、もう。

蛇喉 そうだね。

うどん どうして止めなかったんですか。分かってたんじゃないんですか。

下手からの強い風の音。亀腹は勢い良く転がり、どこかの幕内に去っていく。

亀腹 ああああ、助けて……（何故か笑いながら転がり去る）

うどん ああ駄目だ、風向きが。ここも直に埋まりますよ。

蛇喉 うん。（座る）

うどん とりあえず、ここから抜け出さないと。（なんとか立ち上がる）

蛇喉 そうね。

うどん あ。なんで座るんですか。さあ立って。

蛇喉 （スルスルと椅子から崩折れる）

うどん 部長？ 部長？ 部長……！

楽しいな音楽、鳴る。

うどん え、なに？

音楽、カットアウト。

蛇喉 ああ、お腹お腹。お腹空きすぎてもう駄目だ。
うどん え、今のお腹の音なんですか。
蛇喉 あんた行きな。私はもういいから。
うどん そんな…。

再び下手からの風の音。砂埃と共に下手奥から、カップ麺が二個、転がってくる。

うどん あ。カップ麺です、古いカップ麺が、(それを拾い)どこにあったんだろう。ほら、原材料小麦粉。

今作りますからちよっとだけ待って下さい、お湯を入れて(説明書きを見て)ほんの一年と三ヶ月です。
え？(もう一つも読む)四年と八ヶ月…え？

蛇喉 ああ、昔はのんびりしてたからねえ…。

うどん (崩折れる)…。

蛇喉 (動けないまま) いい時代だったよ。本当に。

うどん (動けなくなり) そうですか？

二人、動けないまま、照明、暗くなっていく。

うどん ……。ああもう、駄目だ。

蛇喉 ……。ああごめん、また真っ暗だ。

そうして3秒経ち、真っ暗になる寸前に、ヘリコプターの音が聞こえて来る。空の灯りが動く。

うどん ……ん？(上を見上げ)部長、何か…

声 特別災害対策本部及び視察団です。今、降下します。

うどん (何とか立ち上がりながら) あ、部長、何か来ました、

蛇喉 ああ…

うどん 部長、ほら立って。あ…

ヘリコプターの音、近づいて来て上手奥に着陸。照明光る。

その上手側からの風に煽られ、うどん、下手奥に吹き飛ばされる。

うどん あ、あ、部長、部長、(下手奥へ転がっていく)

ヘリコプター音やむ。上手奥から団員1、2、3、急ぎやって来る。

こっちだ！

団員2 (蛇喉を見つけ) 生存者が、

団員1 (団員2に) 急げ！

団員3 (部屋を見て) 酷いな、今にも崩れ落ちそうだ。

団員2 (蛇喉に) しっかりして下さい。

団員1 (上手奥に) こちらが被災地の中心です。生存者が居ました。

総理 (作業服姿の総理、やって来る) これは酷い。なんてことだ。

記者 (その後からシャッターを切りつつやって来る)

団員3 総理、生存者です。

総理 (蛇喉のもとに向かい) ああ良かった、もう大丈夫です。(蛇喉を抱きしめる)

記者 (シャッターを切る)

団員2 今、応急処置を。

総理 安心して下さい。我々は直ちに総力を挙げて救護活動と対応に当たりますので。

団員3 (上手前を見て) ああこっちは落雷被害が、

団員1 (蛇喉に) わかりますか？助かったんです。ここら一帯が突然の異常気象によって、酷い被害にあったんです。

蛇喉 え…

総理 助かったんですよ。もう大丈夫です。十分な療養と、その後の生活支援とサポートを、お約束しますから。

記者 (総理と蛇喉に向けてシャッターを切る)

蛇喉 あ、いえ(慌てて書類を丸めて) でもこれ、私がやっただんです、私一人で。私のせいですから、

(ポケットからライターを出してそれを燃やそうとする。しかしやはり火はつかない。しばし力チ力チ)

下手の壁の上からバースデーケーキを持った女1と花火を持った女2、顔を覗かす。

団員2 どうしたんですか。大丈夫ですか。

団員3 しっかりして下さい。気を確かに。

総理 (大きく笑って) あなたは、被害者だ。

女ら、引っ込む。

蛇喉 でもこの爆発は…、

総理 いやいや全て上空で巻き起こった、異常気象のせいですよ。上空が、荒れ狂ったんです。

だからあなたは何も悪くありません。誰も悪くないんですよ。

蛇喉 え…(空を見上げる)

総理 だから、安心して下さい。

団員ら、総理と同意の意を、蛇喉に向ける。

…：…：…、なんですか…？

蛇喉 ええ。(蛇喉の肩を頼もしく掴む)

蛇喉 ああ…(総理に思わずすがり付こうとするも) 伊勢エビ？(総理の背中についた伊勢エビを見た)

団員2 栄養状態は芳しくありませんが搬送可能です。

蛇喉 サザエ？(団員2の背中の子ザエを見た)

団員3 ここは危険です。早めの帰還を、

蛇喉 アフビ？(団員3の背中のアフビを見た)

団員1 ああ早急に状況確認と出発準備を、

蛇喉 コンブ。(団員1の足の昆布を見た)

記者 こっちを見てください。(とカメラを構えて鞆を退かすと股間にマダコ)

蛇喉 マダコ？

頭の上に一段と大きなカニを乗せた高齢めの女性、大きな玉手箱を持って、走ってやって来る。

母親 優子…！優子あんた、無事だったんだね…！
蛇喉 カニ？！

母親 良かった…！優子、良かった！(蛇喉に抱きつく)

記者 (シャツターを切る)

蛇喉 え、カニ？！

団員1 (母親に) 駄目じゃないですか、危ないです。

団員2 (蛇喉に) どうしてもというので同乗してもらったんですが、

団員3 (母親に) ヘリに戻っててください、今、優子さんも搬送しますから、

母親 (蛇喉に) 心配したんだよ…。あんたほんと長いこと顔を見せずに…それが急にこんな…、驚いたよ…。

蛇喉 ああ母さんか。どうしたの？それ…(玉手箱を見る)

母親 え？ああ。昨日まで観光バスで神奈川の方に行ってたのよ。それで亀が。

蛇喉 はあ(玉手箱に手を伸ばす)

母親 (即座にその手を叩き) 駄目、やめて！

蛇喉 え…。

総理 ほお。我々内閣もここに、三日バカンスを貰ってましたが、丁度昨日全員戻って参りまして。(懐から

玉手箱を出し見せる)

団員1 ああ。我々もここ一週間ほど香川へ視察旅行へ出ていましたが昨日ちょうど。(団員2、3と共に鞆から

玉手箱を出し見せる)

記者 あ。私もここに一ヶ月ほど宮城の方へ。(同じく鞆から玉手箱出しを見せる)

蛇喉 はあ。(全員玉手箱を見る)

総理 いや本当に。我々の留守中は、諸々と行き届かなくて大変申し訳がなかった。(蛇喉の手を握ってから記者に) 国民の皆様にも深くお詫びを申し上げます。本当に苦勞されたことと思います。深くお詫びする次第です。ええ。ざっと確認した所、どうにも少々混乱しているように見受けられる、只今の国内情勢、経済情勢であります。しかしながら！我々が戻ったからには、もう安泰であります。このたび華々しく政権に返り咲いた我々は、我々の力の及ぶ限り、スピーディーでファジーな政策を、パツパパララと。5時まで男も5時から男も、24時間戦えますぞ！と。モーレツイケイケと。NOと言える日本を、目指して参りたいと思います。

(歓声と拍手)

蛇喉 え。

記者 (メモを取っていたが総理に) いやあ正直総理はここんとこ江川って田淵ってると思ってたんですが、今日はだいぶ、サダハるってますね。(蛇喉に) ね。ぶつとびです。(そして総理に向かってシャツターを切る) は？あの…

団員2 (真剣に) どうしました？ブツンしました？

蛇喉 え？

団員1 (真面目に) さあ、早く帰ってアッシー君とみつぐ君のポケベル鳴らさないと。

蛇喉 竜宮城に行ってたんですね。

全員、ビクツとする。

総理 (記者に) またこの昭和における…

団員3 (即座に) あ、平成です、平成、

総理 (笑って) あ、失敬。この平成における(蛇喉「レイワ」)記録的な地価の下落と株価の暴落。

蛇喉 これを我々は直ちに食い止め、このチヨベリバな雇用と市場の状況を、チヨベリグな経済政策で、竜宮城に行つてたんですね。

全員、ビクツとする。

母親 何言つてんの。しっかりして。もう大丈夫だから。

団員2 ええバッチグーです。

団員3 ええそれなりの人はそれなりに。

母親 だから早く帰ってティラミスとナタデココ食べましょ。ジャワティー買ってあるから。

総理 ね。安心して下さい。我々がしっかりと、国政の舵を取りますから。

蛇喉 取らないで下さい。

団員1 え？

蛇喉 お願いです。

総理 大丈夫です。この災害の周知と復興に向けては、まず盛大なキャンペーンと、巨大モニュメントを。

団員1 はい。早急に標語とスローガンを発注して、ポスターの大量作成を。

団員2 はい。CM制作を急げ。テレビにラジオに映画用を。

団員3 はい。予算はざっと七十兆円くらいですか。

総理 ああ。しくよる。

蛇喉 やめて。

総理 え？

蛇喉 やめて下さい。

総理 (優しく頷き、蛇喉の肩にそっと手をやり) …ガンバルンバ。(そして上手奥に歩き出す)

蛇喉 あっ、ちよっと待って、

賑々しく意気揚々と、去っていく総理と団員らと記者。

蛇喉 駄目なんです、それじゃ駄目なんです…。

蛇喉と母親を残し、総理と団員ら、去っていく。

母親 どうしたの。大丈夫よ。何も心配いらないわ。

蛇喉 母さん…。

蛇喉、母親の持つ玉手箱を見つめる、間。

母親 …なに？ 開ける？

蛇喉 えっ

母親 開けて欲しい？

蛇喉 ……………。

母親 (蛇喉の顔を見てから、しょうがないわねと玉手箱の紐を解き始める)

蛇喉 (咄嗟に母親に抱きつく)

母親 (玉手箱が開けられなくなり、仕方なく優しく蛇喉を抱き寄せる)

音楽イン。ホイッスルの音と「オライイ、オライイ」と声が聞こえ出し、工事作業員がやって来る。重機を誘導する工事作業員ら。思わず重機を見上げた母親、驚く。
巨大な丸太が突き立つ衝撃音と共に、舞台上、暗転。

ENDING映像

日本列島。本州の中心、群馬県に巨大な帆柱が立っている。

その帆には「らくらくメルカリ便」の文字。帆がたなびいて列島が動き出す。
意気揚々と楽しみに、列島は航海を始める。

インスタント麺工場が稼働する様子。大量生産されていくカップ麺。

箸を持ち、それを前に喜ぶ人たち。憎む人たち。映像出演協力者名。

大量のうどんたち、楽しみに工場ラインに流される。

30年間の日本の風景とげんこつ団公演の過去映像の短いコラージュ。

出演者名、順に。舞台上明転。順に舞台上に並び、一礼。